公益財団法人仙台市市民文化事業団
中期経営計画（2018-2020年度）
及び2019年度（平成31年度）事業計画の概要

1　中期経営計画案の全体像

本計画案は、2017年1月に策定した「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」にある5つの基本方針に基づき、2018年度から3ヵ年にわたって取り組む事業のねらいや方向性とともに、その実現を支える経営強化目標、収支計画等によって構成されています。加えて2年目（2019年度）の具体的な事業計画について、概要を示しました。

定款 第３条 目的

この法人は、文化芸術の振興、郷土の歴史の継承及び生涯学習の支援に関する事業を行い、もって魅力ある市民の文化創造と豊かな市民生活の実現に寄与することを目的とする。

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」

5つの基本方針

＜方針その１＞
資料の収集と活用
ミュージアム施設の管理・運営／常設展・企画展等の開催

＜方針その２＞
市民の文化活動への支援
活動者への支援・助成・協力／鑑賞機会の提供

＜方針その３＞
さまざまな人材の育成
講座・ワークショップ・市民協働型事業の実施／ボランティア組織の運営

＜方針その４＞
[楽都][劇都]の成長促進
音楽・舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進／劇場・音楽堂の活性化

＜方針その５＞
地域文化資源の活用
文化による地域共生社会の振興／新たな地域文化の創造

経営の強化

●人材の確保・育成

●経営基盤の強化

2　「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」基本方針と計画の概要

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

＜方針その１＞ 資料の収集と活用　＊その２にも該当

歴史や伝統、多様な文化芸術に関する資料収集・調査研究とその成果の活用により、市民の暮らしに息づく文化の保存・伝承および総合的な文化の振興を図り、まちの魅力向上に活かします。

① 資料収集や調査研究を通じて、文化を育み活用する基盤の整備に寄与し、市民文化の振興に努めます
② 調査研究等で得られた成果を活用し、さまざまな手法でこれを市民に提供していくことで、市民が学びを楽しむきっかけをつくるとともに、「ミュージアム都市」として、継続的な学びを支援します
③ 長い年月の中で、災害や技術の進歩、ライフスタイルの転換などにより、変化し、喪失してしまう地域の記録や記憶を保存し、大切な文化資源としての活用を図ります

2018-2020年の方向性

2019年度の「歴史民俗資料館開館４０周年」「仙台文学館開館２０周年」を節目と捉え、両施設の周年事業を次の方針で計画・実施・検証するなど、今後の各ミュージアム運営に資する新しい業務に着手していきます。

・蓄積した資料や成果を国内外に向けて積極的に情報発信します
・施設の存在をさらに広く知ってもらうために、多彩な事業を実施し、新規の来場者を開拓します
・現在の施設運営課題を絞り込み、その解決のための新たな方策や事業を試行しながら、その効果を検証します

2019年度事業の概要

2018年度は、「コメどころ仙台～コメの生産と消費の歴史」（歴史民俗資料館）、「米づくりはじめました」（富沢遺跡保存館）、「連載40周年記念　ガラスの仮面展」（仙台文学館）などの企画展に加えて、歴史民俗資料館・仙台文学館の周年事業準備に取り組みました。2019年度は歴史民俗資料館開館40周年記念事業及び仙台文学館開館20周年記念を行い、施設の魅力を例年以上に強く発信することにより、新規来場者の開拓を図ります。

（１）ミュージアム施設の管理運営・資料収集・調査研究

ア 仙台市歴史民俗資料館 管理運営（市指定管理料／No.77,84-85）
イ 仙台市富沢遺跡保存館 管理運営（市指定管理料／No.87,94-98）
ウ 仙台市縄文の森広場 管理運営（市指定管理料／No.100-115）
エ 仙台文学館 管理運営（市指定管理料／No.116,123）

（２）常設展・企画展等の開催

ア 仙台市歴史民俗資料館 企画展等（市指定管理料／No.78－81）
イ 仙台市富沢遺跡保存館 企画展等（市指定管理料／No.88-92）
ウ 仙台市縄文の森広場 企画展等（市指定管理料／No.101-102）
エ 仙台文学館 企画展等（市指定管理料／No.117-121）

主な展示事業

・仙台市歴史民俗資料館「堤焼と堤人形」
・地底の森ミュージアム「仙台のたから」（仮称）
・仙台市縄文の森広場「東北の縄文遺跡」
・仙台文学館「斎藤茂吉展」

仙台市歴史民俗資料館 開館40周年記念事業
・ありがとう４０年・仙台の伝統芸能

仙台文学館 開館20周年記念事業
・２０周年記念特別展「井上ひさしの劇列車Ⅰ期、Ⅱ期」
・連続トークイベント「井上作品と私」
・２０周年企画「夏休みこども文学館えほんのひろば　スズキコージの世界展」
・スズキコージトークショー＆ワークショップ

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

＜方針その２＞ 市民の文化活動への支援

市民が行う自主的な学びや活動の場を提供し、さまざまな文化活動を支援することで、年代やライフステージに関わらず誰もが心豊かな市民生活を送り、地域が活性化することをめざします。

① 市民や市民団体が行う自主的な学びや活動を支援するとともに、市民が多様な文化に触れる機会を提供し、心豊かな暮らしと地域の持続的な発展に寄与することをめざします
② 多様な文化に関わる情報に誰もがアクセスできるよう、さまざまな手法による発信に努めます
③ 震災からの復興や地域づくりにおいて文化が果たしてきた役割を検証し、次代につないでいきます
④ 多様な年代・ライフステージに応じた学びと活動の機会を確保し、文化への理解と支援の拡大をめざします
⑤ 施設の利用者がいつも安全に安心して利用できる管理運営を行うとともに、さらなる魅力の向上を図ります

2018-2020年の方向性

当財団が果たしてきた市民活動支援の役割を維持継続していくとともに、既存の制度や仕組みの段階的な充実を図ります。加えて鑑賞者向け事業やサービスを、時代の変化を意識して再編成します。

・2020年度のせんだいメディアテークの開館２０周年を節目と捉え、次の１０年の方向性の検討をすすめ、周年事業を計画・実施します
・鑑賞者に向けた各種広報及び「市民文化事業団友の会」、制度改正後１０年余りが経過する「支援・助成・協力事業」の仕組み等を改めて検証し、それぞれ有効度の向上に取り組みます
・ホール系施設の劇場としての機能充実を目指し、より良い運営のための外部評価の充実や、文化庁等外部財源のさらなる獲得に努めながら、事業の充実を図ります

2019年度事業の概要

2018年度は「青年文化センター」「泉文化創造センター」「せんだい演劇工房10-BOX」「せんだいメディアテーク」の管理運営や「支援・助成・協力事業」などの継続を通じて、多様な文化活動への支援を行いました。2019年度は、せんだいメディアテーク開館20周年に向けた記念事業の準備を、施設の将来像を見据えながら進めます。加えて、市民ニーズに応える鑑賞公演を幅広く実施するほか、ダンスやミュージカルなどの市民参加プログラムを継続します。また、「支援・助成・協力事業」の新たな仕組みづくりなど、時代の変化に沿った事業リニューアルに取り組みます。

（１）活動者への支援・助成・協力

ア 仙台市青年文化センター管理運営（市指定管理料／No.124）
イ 仙台市泉文化創造センター管理運営（市指定管理料／No.125）
ウ せんだい演劇工房10-BOX・能-BOX管理運営（市補助金・使用料等／No.58）＊その４にも該当
エ せんだいメディアテーク管理運営・生涯学習支援事業（市指定管理料／No.126,127）＊その３・その５にも該当
オ 支援・助成・協力事業（市補助金・自主財源／No.5）＊その３・その５にも該当

（２）鑑賞機会の提供

ア 仙台文学館普及啓発補助事業（市補助金／No.63-64）
イ せんだいメディアテーク経常補助事業（市補助金・助成金・入場料等／No.73-76）＊その５にも該当
ウ 事業課自主事業／鑑賞事業（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料／No.10,13）＊その４にも該当
エ 共催事業／文楽・青葉能等（自主財源／No.12）＊その４にも該当
オ 仙台市青年文化センター活性化事業＜こどもの夢ひろば”ボレロ”等＞
（自主財源・協賛金・入場料等／No.14）＊その４にも該当
カ 仙台市泉文化創造センター活性化事業＜宝塚・寄席・ロビーコンサート等＞（自主財源／No.15）＊その４にも該当
キ 仙台市歴史民俗資料館活性化事業＜れきみん秋祭り等＞（自主財源・助成金／No.16-17,28）
ク 仙台市富沢遺跡保存館活性化事業＜冬キラ・古代米・狩人登場等＞（自主財源・参加料等／No.18-20,28）
ケ 仙台市縄文の森広場活性化事業＜縄文まつり復元プロジェクト等＞（自主財源／No.22-23,28）
コ 仙台文学館活性化事業＜ライブ文学館等＞（自主財源・助成金・入場料等／No.24-25,28）
サ せんだいメディアテーク活性化事業＜ホスピタリティ向上事業等＞（自主財源／No.26,28）
シ 文化情報広報事業（市補助金・自主財源／No.47）
ス 「市民文化事業団友の会」事業（自主財源／No.48）

主な鑑賞事業

・**劇都仙台ミュージカルプロデュース公演**
・**劇都仙台演劇プロデュース公演プレ企画**
・**Co.山田うん 2019ツアー「話のない物語」（仮題）**
・**子供と大人のためのダンス公演「日本昔ばなしのダンス」**：日本の昔ばなしをモチーフにした、子どもから大人まで楽しめるダンス公演。彩の国さいたま芸術劇場と連携。
以上の会場：仙台市青年文化センター
・**宝塚歌劇公演**
・**演劇公演「カリギュラ」**：演出/栗山民也、主演/菅田将暉。
・**新春いずみ寄席**　以上の会場：仙台市泉文化創造センター
・**仙台オペラ協会公演「メリー・ウィドウ」**　会場：宮城県民会館
・**仙台青葉能／文楽公演**　会場：仙台電力ホール
・**れきみん秋祭り**　会場；仙台市榴岡公園／仙台市歴史民俗資料館
・**縄文まつり復元と創造プロジェクト**　会場：仙台市縄文の森広場
・**ミュージアムシアター「狩人登場！」**　会場：地底の森ミュージアム

事業リニューアルの検討（継続）

・**支援・助成・協力事業**　課題；アーカイブ分野等、新たな対象事業の取り込み
・**広報事業／市民文化事業団友の会**　課題：サービスの多様化・IT化／コストダウン
・**文化庁劇場・音楽堂等活性化事業**　課題：事業内容及び外部評価制度の充実
・**せんだいメディアテーク開館２０周年のための調査・準備**

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

＜方針その３＞ さまざまな人材の育成

多様な文化活動に関わる人材のすそ野を広げ、子どもたちをはじめとする次世代や新たな担い手の育成に努め、文化に関わる市民力の向上をめざします。

① 子どもたちが優れた文化や地域の歴史に触れる機会を増やし、次代の文化の担い手としての成長を応援します
② 各種ボランティアやサポーターの活躍機会の拡大に努め、互いに交流・連携しながらスキルアップをめざす取り組みを応援します
③ 多様な文化の担い手となる人材を育成し、新たな文化の創造や地域文化の発展・継承をめざします
④ 地域に受け継がれてきた伝統や民俗芸能の継承を支援し、鑑賞の機会を増やして理解を広げ、地域への誇りや愛着を深めていきます

2018-2020年の方向性

市民の多様な興味関心に応えて、芸術文化に触れる機会を広く提供する講座・イベントから、表現活動のスキルアップを目的としたワークショップまで、豊かな文化活動の担い手育成のために多層的なプログラムを実施します。

・子どもから大人まで、文化を体験できる多様な事業を行います。
・地元のアーティスト、学芸員、指導者など向けに、受講者とのコミュニケーション方法や派遣先の地域や学校をつなぐコーディネート手法など、ワークショップを支える人材の育成を図ります。
・文化施設や大規模な文化事業を一緒に運営するボランティアの方々とは、ノウハウの情報共有を行っていきます。

2019年度事業の概要

2018年度は、出演者公募による「ミュージカルプロジェクト」や、親子から中学生まで幅広い世代を対象にした「ダンスプロジェクト」を立ち上げました。2019年度はこれらの事業を継続し、創造体験を通じた文化の担い手の育成を図ります。加えて、第7回を迎える国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバルの運営にあたるコンクールボランティアの活動サポートに加え、ミュージアム施設を支えるボランティア事業を継続し、新たなボランティア部門の開発にも取り組みます。

（1）講座・ワークショップの実施

ア 事業課人材育成事業（市負担金・文化庁助成金・自主財源・受講料等／No.13,43）
イ せんだい演劇工房10-BOX舞台芸術人材育成事業（市補助金・自主財源／No.30,32,33,37）＊その４にも該当
ウ 能-BOX 古典芸能人材育成事業（市補助金・自主財源／No.34）＊その４にも該当
エ 藝大早期育成プロジェクト（自主財源／No.44）＊その４にも該当
オ 仙台文学館 学芸員出前講座・仙台文学館ゼミナール等各種文学講座（市補助金・自主財源・受講料／No.45,66,68）
カ 歴史民俗資料館 子ども講座・たんけん資料館等各種講座、ワークショップ（市指定管理料／No.82）
キ 仙台市富沢遺跡保存館 考古学講座・楽しい地底の森教室等各種講座・市民文化財研究員（市指定管理料／No.93）
ク 仙台市縄文の森広場 発掘調査体験教室・夏休み子ども考古学講座等各種講座（市指定管理料／No.105,106）
ケ 文化庁芸術家派遣事業（実行委員会参画／文化庁委託料／No.42）

（2）ボランティア組織の運営

ア 仙台国際音楽コンクール・仙台クラシックフェスティバル／ボランティア事業（市負担金等／No.54）＊その４
イ 仙台文学館友の会支援事業（市補助金 経費なし／No.71）
ウ 仙台市歴史民俗資料館サポーター養成事業（市指定管理料／No.82）
エ 仙台市富沢遺跡保存館ボランティア事業（市指定管理料／No.93）
オ 仙台市縄文の森広場ボランティア事業（市指定管理料／No.106）

主な講座・ワークショップ

・劇都仙台ミュージカルプロデュース公演
一般公募の出演者によるミュージカル作品の制作を継続、12月に集大成として公演を実施。
・せんだいダンスプロジェクト
未就学児の親子、小学生、中学生など対象毎のプログラムにより多様な人材を育成。
・東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト
・まなぶ・からだ-身体表現ワークショップ
身体表現に着目し、演劇に関する表現を幅広く体験し、多角的に学ぶ講座。
・劇都・仙台演劇祭 メインステージ
・舞台スタッフ☆ラボ
・能-BOX 古典芸能ワークショップ
・文学館で言葉を楽しもう
小中学校の授業とタイアップし、文学への興味や感性、表現力を養うプログラム。
・文化庁芸術家派遣事業
「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が文化庁から業務を受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞機会を提供する事業。会場：市内学校・保育所等

主なボランティア事業

・**仙台国際音楽コンクール／仙台クラシックフェスティバル ボランティア**
会場運営などのボランティアの募集・運営。登録２９１名。
・**仙台市縄文の森広場ボランティア**
各種体験活動の補助や展示解説を担うボランティアの募集・育成。登録６９名。
・**地底の森ミュージアムボランティア**
展示解説や各種イベントの補助を担うボランティアの募集・育成。登録７０名。

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

＜方針その４＞ [楽都][劇都]の成長促進 ＊その２・その３にも該当

「楽都」や「劇都」として、市民が参加し、育んできた文化をさらに成長させ、仙台の魅力として国内外に発信していきます。

① まちに音楽があふれ、誰もが気軽に楽しむことができる機会を拡充し、音楽を「する」「聴く」「支える」文化を育て、仙台の文化としての発信に努めます

② 子どもたちをはじめとする若い才能を育み、世界に羽ばたくチャンスをつくり、「楽都」の基盤を支えます

③ 舞台のつくり手と支え手の育成を支援するとともに、活躍の場を広げ「劇都」にふさわしい舞台芸術の振興に努めます

④ 多様な市民が集い、感動を共有する場である劇場等を地域における文化拠点として運営し、文化の継承・創造・発信の場として活用していきます

2018-2020年の方向性

・３年ごとに開催する「仙台国際音楽コンクール」は、2018年度に本格的な準備を行い、2019年度に第７回開催（５月～６月）、2020年度の第８回開催の概要広報まで、一連の業務を想定し、制作を進めるとともに、継続的に地域の音楽文化振興に寄与する関連事業を実施します。
・2006年にスタートし市民に深く浸透した「仙台クラシックフェスティバル」を、新規性も加味しながら引き続き開催し、音楽ファンのさらなる拡大によって「楽都仙台」の充実を図ります
・“劇場法”の制定で重要度が増す「舞台芸術振興」のための諸事業を、せんだい演劇工房10-BOXとホール系施設の役割を改めて相互に明確化しながら再整備し、個々の事業の目的を明確にし、有効性を高めます
・仙台市と検討を進めている今後の舞台芸術振興のヴィジョンづくりを継続し、事業体系全体の構造を強化することから、「劇都仙台」事業の充実を図ります

2019年度事業の概要

2018年度は、第7回仙台国際音楽コンクールの本格的な準備を進めるとともに、新演劇祭の本格開催に向けたプレイベントを開催しました。2019年度は本番を迎える同コンクールを開催し楽都仙台の発信に努めるとともに、仙台クラシックフェスティバルの安定的な継続を図ります。加えて劇都・仙台演劇祭については、舞台に触れる機会の得にくい方々に対して、より開かれた演劇祭としていきます。また、2020-2021年の「東北復興舞台芸術プロジェクト」実現を目指し、準備及びプレイベントを行います。

（１）音楽の振興と創造・発信型事業の推進

ア 仙台国際音楽コンクール運営事業（市負担金／No.50-56）
イ 仙台クラシックフェスティバル（市負担金・協賛金・入場料・自主財源等／No.8）
ウ 仙台ジュニアオーケストラ運営事業（市負担金・受講料・入場料等／No.57）＊その３にも該当
エ もりのみやこのふれあいコンサート（市補助金／No.9）
オ 市制施行記念コンサート（市委託料／No.61）
カ 地下鉄駅コンサート（市負担金／No.39）

（２）舞台芸術の振興と創造・発信型事業の推進

ア せんだい演劇工房10-BOX 現代演劇鑑賞事業（市補助金・自主財源・入場料等／No.31）

イ 市民能楽講座（市負担金／No.29）

ウ 能-BOX 施設活性化事業（市補助金／No.34）

エ 東北復興舞台芸術プロジェクト（市負担金／№41）

（３）劇場・音楽堂の活性化

ア 文化庁劇場・音楽堂等機能強化推進事業（市負担金・文化庁助成金・自主財源・入場料／No.13）

主な楽都仙台事業

・第７回仙台国際音楽コンクール
　３９の国と地域から予備審査を経た８２名の若き才能の競演。（ピアノ部門４２名：5/25～6/9、ヴァイオリン部門４０名：6/15～6/30）

・仙台クラシックフェスティバル2019
　１４回目となる今回は、仙台国際音楽コンクール入賞者や設立３０周年を迎える仙台ジュニアオーケストラＯＢＯＧ等による記念公演など、仙台の音楽的財産が集結する当財団ならではの企画を実施。

・仙台ジュニアオーケストラ運営事業
　公募・選考による公立のジュニアオーケストラ。音楽監督：平川範幸(上野学園大学非常勤助教）講師；仙台フィルハーモニー管弦楽団団員　団員定員１２２名

・もりのみやこのふれあいコンサート
　障害のある方対象の仙台フィルハーモニー管弦楽団のコンサート。会場：仙台市泉文化創造センター

主な劇都仙台事業

・劇都・仙台演劇祭
　舞台に触れる機会が得にくい方、会場に足を運べない方も参加、鑑賞しやすい開かれた演劇祭を開催。

・SENDAI OROSHIMACHI Art Marche（せんだい卸町アートマルシェ）
　市民協働による卸町での舞台芸術フェスティバルを引き続き開催。担い手の育成も目指す。

・せんだい短編戯曲賞事業
　短編戯曲賞のこれまでの大賞９作品の受賞作家のいずれかに作品執筆を依頼、その上演やトークイベントなどを実施。

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

＜方針その５＞ 地域文化資源の活用

多様な分野や担い手との連携と交流を進め、地域や文化資源の新たな魅力発掘に努めるとともに、文化の力を地域の活性化や課題の解決に活かします。

① 自然や歴史、伝統など、地域に息づき、育まれてきた文化の土壌を発展させ、その魅力を高める活動を支援します

② さまざまな文化活動を介して他者への理解を促進し、多様な価値観と生き方を認め合う地域社会をめざします

③ 地域の課題や魅力の発見・発掘に努め、多様な担い手と連携して新たな地域文化を育む取り組みを支援します

2018-2020年の方向性

　地域共生社会に対応した文化活動のあり方を模索し、地域や社会課題に対応した文化事業を実践していきます。

・施設来場者、文化芸術団体、施設近隣の方々など、さまざまな立場の方々と文化施設や文化事業のあり方について対話を行い、地域における幅広いニーズや意見を把握します。
・それらの知見をもとに、自然・環境、子育て、障害のある方の情報アクセス、震災の記憶・記録を残し伝え学ぶ環境などに対応した事業を模索し、各文化施設の特徴や資源を活かして実施していきます。
・特に、地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災については、2021年３月には１０年目を迎えることから、震災から１１年目以降の次世代に向けて、文化活動を通した震災の経験や記憶の継承について、持続可能なあり方を模索していきます。
・仙台市文化プログラムやせんだい・アート・ノード・プロジェクトでは、社会の課題を見据え、地域の資源や人材を生かした文化事業を行います。

2019年度事業の概要

2018年度は、せんだい3.11メモリアル交流館の運営2年度目として、企画展「MIYAGI 1951～米軍医のまなざし、戦後6年の沿岸部～」、「竹であそぶ」、「3.11現場の事実×心の真実　それでも、下水は止められない。」を開催し、施設の魅力を多方面へ発信しました。2019年度は、同施設においてミュージアムグッズの販売体制を整備し、施設機能の強化を図ります。継続中の「アート・ノード・プロジェクト」、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた「仙台市文化プログラム」の実施にあたっては、社会課題を意識しながら、地域の文化資源を活かした事業推進を強化します。

（１）地域共生社会を見据えた事業

ア 利用者や地域との運営懇談会（市指定管理料／No.99,109）

（２）震災・復興に文化を通して向き合う事業

ア せんだい3.11メモリアル交流館運営等（市委託料／No.59-60）

（３）地域・社会の課題を見据えた文化事業　＊その３にも該当

ア 「仙台市文化プログラム」公募・共催事業（市負担金／No.40）

（４）新たな地域文化創造にむけた事業　＊その２にも該当

ア せんだい・アート・ノード・プロジェクト（市補助金／No.73）

せんだい3.11メモリアル交流館の主な事業

・企画展（年間３回程度）
東日本大震災の概要や実際の記録等で構成された常設展コーナーと併せ、震災メモリアルや地域再生のための心の復興を見据えた多様なテーマによる展示を企画。

・ワークショップ・講座等
震災復興メモリアルや地域の魅力発信に係るワークショップや講座等の開催。交流の場を創出する事業、ネットワークを構築するイベントなども実施。

・情報収集・発信事業

・関連物品販売業務
被災地サイダーなど施設にちなんだグッズを販売。

公募による市民協働事業

・仙台市オリンピック・パラリンピック文化プログラム
「文化芸術による震災復興」「文化芸術による障害者支援」「地域の文化芸術資源の活用」の３テーマで実施。

せんだい・アート・ノード・プロジェクト（４年目）の主な事業

・川俣正「仙台インプログレス」
沿岸部岡田地区貞山堀に現代美術家設計の橋を架ける、貞山運河に沿って長期展開されるプロジェクト。

・東北リサーチとアートセンター「TRAC」の運営
仙台・東北の資源や歴史を調査、表現、交流する拠点の運営を継続。

・市民協働により街なかで展開されるアートや文化の今をきくイベント「TALK」

３． 経営の強化に向けた取り組み

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

●人材の確保・育成

（１）職員の専門性と能力の開発

ア 他都市や他機関を含む研修機会の充実

イ 専門性の高い人材の確保

ウ 中長期的な育成の見地に立った異動・交流のしくみの検討

（２）市民協働の推進

ア 市民協働のさまざまな場面での推進

イ ボランティアやサポーターの活動機会の拡大・ネットワーク構築

2018-2020年の方向性

・仙台市及び他機関の研修機会を積極的に活用します
・独自に企画する研修の分野や機会を拡大し、内容の充実を図ります
・職員個々の適性をもとに、キャリアアップやＯＪＴの観点を重視しながら、育成面でも有効な人事を行い、組織力の維持向上を図ります
・今後増加する職員の定年退職に備え、中長期の再雇用計画について検討を進めます
・各事業の実施を通して、外部のさまざまな方々と協働することから、仙台の文化芸術振興に欠かせない担い手の育成を進めます

2019年度の取り組み

（１）独自企画研修の強化・回数増

（２）固有職員再雇用計画の作成

（３）助成事業等、市民活動支援事業の充実に向けた調査・検討

（４）継続中の市民協働型事業の再編に向けた検討、新たな協働事業の試行

「市民文化事業団の事業運営に関する基本指針」より

●経営基盤の強化

（１）運営基盤の強化

ア 補助金助成金の活用／多様な資金調達手段の開発

イ 新たな顧客やリピーターの開発／友の会制度の見直し

（２）組織の強化

ア 外部団体や企業との連携の促進

イ 他都市や他機関との連携の促進

ウ 組織内での情報共有の徹底

エ チャレンジする組織風土への変革

（３）安心・安全の確保

ア リスク予防やＢＣＰ策定等による安心安全体制の構築

イ 運営施設の案内やサイン表示のわかりやすさの向上

ウ 運営施設の老朽度合等の把握／こまめな修繕

（４）情報発信の強化

ア ホームページの見直し

イ SNS等の活用

2018-2020年の方向性

・基本財産及び退職給付引当資産の運用先の拡大を視野に、規程の見直しを含めて検討を進めます
・寄付取得の方法やその広報手法の調査・開発を行います
・外部資金獲得のための情報収集・共有を、組織内で徹底します
・「市民文化事業団友の会」制度の見直しを行い、文化鑑賞会としてのサービス・アップを図ります
・ホームページの改善にむけ、調査・検討を継続し、システム改修を行います
・施設の指定管理を維持していくため、総合的な経営基盤の強化を施設の運営業務においても生かしていくとともに、次期申請に向けた新しい取り組みを開発します

2019年度の取り組み

（１）全国の文化振興財団の寄付取得実績や広報の状況の調査

（２）文化庁・地域創造等による補助金制度の調査強化・活用拡大

（３）ホームページ改善のためのシステム改修計画の作成

（４）仙台市泉文化創造センターの次期指定管理申請（2019年度）の準備

2018年度から3ヵ年の収支計画（案）　（単位：千円）

1.　3ヵ年の初年（2018年度）作成の収支計画（案）

【経常収益】		30(2018)年度	31(2019)年度	32(2020)年度
1　仙台市費		**2,188,270**	**2,423,665**	**2,201,230**
	指定管理料収益	1,553,964	1,569,574	1,576,000
	受託料収益	74,366	75,523	75,869
	市補助金	406,343	410,564	412,098
	市負担金	153,597	368,004	137,263
2　その他		**230,600**	**277,528**	**233,060**
	基本財産運用益	16,321	15,661	15,661
	特定資産運用益	4,905	4,905	4,874
	事業収益	155,302	181,230	150,953
	助成金等	53,972	75,632	61,472
	雑収益	100	100	100
合計		**2,418,870**	**2,701,193**	**2,434,290**

【経常費用】	30(2018)年度	31(2019)年度	32(2020)年度
1　人件費	1,038,469	1,064,057	1,068,463
2　事業費	1,374,872	1,637,205	1,366,178
3　管理費	6,819	6,819	6,819
合計	**2,420,160**	**2,708,081**	**2,441,460**

【経常増減額】	30(2018)年度	31(2019)年度	32(2020)年度
	▲ 1,290	**▲ 6,888**	**▲ 7,170**

2.　3ヵ年の2年目（2019年度）作成の収支計画（案）

【経常収益】		30(2018)年度	31(2019)年度	32(2020)年度
1　仙台市費		**2,188,270**	**2,457,939**	**2,201,230**
	指定管理料収益	1,553,964	1,590,673	1,576,000
	受託料収益	74,366	81,233	75,869
	市補助金	406,343	414,813	412,098
	市負担金	153,597	371,220	137,263
2　その他		**230,600**	**268,081**	**233,060**
	基本財産運用益	16,321	15,807	15,661
	特定資産運用益	4,905	4,948	4,874
	事業収益	155,302	191,362	150,953
	助成金等	53,972	55,864	61,472
	雑収益	100	100	100
合計		**2,418,870**	**2,726,020**	**2,434,290**

【経常費用】	30(2018)年度	31(2019)年度	32(2020)年度
1　人件費	1,038,469	1,076,598	1,068,463
2　事業費	1,374,872	1,642,101	1,366,178
3　管理費	6,819	6,736	6,819
合計	**2,420,160**	**2,725,435**	**2,441,460**

【経常増減額】	30(2018)年度	31(2019)年度	32(2020)年度
	▲ 1,290	**585**	**▲ 7,170**

【参考】施設公募等スケジュール

<table>
<tr><th rowspan="2">施　設</th><th rowspan="2">管理形態</th><th rowspan="2">選定方法</th><th rowspan="2">期間</th><th>2018年度</th><th>2019年度</th><th>2020年度</th></tr>
<tr><td colspan="3">第4期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">仙台市青年文化センター</td><td rowspan="2">指定管理施設</td><td rowspan="2">非公募</td><td rowspan="2">5年</td><td>（2年目）</td><td>（3年目）</td><td>（4年目）</td></tr>
<tr><td colspan="2">第4期</td><td>第5期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">仙台市泉文化創造センター
※民間企業2社とグループを構成</td><td rowspan="2">指定管理施設</td><td rowspan="2">公募</td><td rowspan="2">5年</td><td>（4年目）</td><td>（5年目）</td><td>（1年目）</td></tr>
<tr><td colspan="3">第4期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">仙台市歴史民俗資料館</td><td rowspan="2">指定管理施設</td><td rowspan="2">非公募</td><td rowspan="2">5年</td><td>（2年目）</td><td>（3年目）</td><td>（4年目）</td></tr>
<tr><td colspan="3">第4期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">先史遺跡保存活用施設
※仙台市富沢遺跡保存館及び仙台市縄文の森広場</td><td rowspan="2">指定管理施設</td><td rowspan="2">非公募</td><td rowspan="2">5年</td><td>（2年目）</td><td>（3年目）</td><td>（4年目）</td></tr>
<tr><td colspan="3">第4期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">仙台文学館</td><td rowspan="2">指定管理施設</td><td rowspan="2">非公募</td><td rowspan="2">5年</td><td>（2年目）</td><td>（3年目）</td><td>（4年目）</td></tr>
<tr><td colspan="3">第4期</td></tr>
<tr><td rowspan="2">せんだいメディアテーク</td><td rowspan="2">指定管理施設</td><td rowspan="2">非公募</td><td rowspan="2">5年</td><td>（2年目）</td><td>（3年目）</td><td>（4年目）</td></tr>
<tr><td colspan="3">運営</td></tr>
<tr><td>せんだい演劇工房10-BOX</td><td>設置運営管理施設</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="3">運営</td></tr>
<tr><td>せんだい3.11メモリアル交流館</td><td>受託管理施設</td><td>－</td><td>－</td><td colspan="3">運営</td></tr>
</table>

公益財団法人仙台市市民文化事業団　平成31年度　事業計画書

1定款第4条第1号、第2号、及び第3号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進）

（単位；千円）

(1)芸術文化振興事業

1)ミュージアム等周年記念事業

①仙台市歴史民俗資料館開館40周年記念事業

仙台市歴史民俗資料館の開館40年を記念し実施する。

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
1	**仙台市歴史民俗資料館40周年記念イベント「ありがとう40年・仙台の伝統芸能」**	11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	1,518	0	
	当館は開館以来39年間にわたり、仙台市内とその周辺地域の人々のくらしと文化にまつわる資料を収集し調査研究を進めてきた。仙台市内にも数多くの伝統芸能が伝えられてきたが、時代の変化の中で失われていったものは少なくない。平成31年（2019年）に開館40周年を迎えるにあたり、記念事業として伝統芸能の上演を行うことは、これまでの当館の活動を振り返るとともに、仙台市内のかけがえのない伝統文化への関心を高めることを目的としている。					

②仙台文学館開館20周年記念事業

仙台文学館の開館20年を記念し実施する。

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
2	**20周年事業「スズキコージトークショー＆ワークショップ」**	7/13	仙台文学館	2,000	0	
	開催中のスズキコージの展示に合わせて、イベントを開催。詩人のアーサー・ビナードとのトークショーと、子どもに向けたワークショップを開催。パワフルで熱いハートと個性的な作風で、熱心なファンを集めるスズキコージの世界を堪能できるような内容とする。					
3	**20周年事業連続トークイベント「井上作品と私」**	通年	仙台文学館	1,400	0	
	展示「井上ひさしの劇列車Ⅰ期・Ⅱ期」の開催に合わせ、井上ひさしにゆかりのある演劇人や映画関係者、詩人、そして若手演出家などを招いてトークイベントを開催。これからの時代を生きる若い世代に、井上作品を継承できるような内容のイベントとする。					

③せんだいメディアテーク開館20周年記念事業準備

せんだいメディアテークの開館20周年記念事業に向けた準備を行う。

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
4	**20周年準備**	通年	メディアテーク	1,000	0	
	2001年に全国的にもめずらしい活動のある複合施設として開館したせんだいメディアテーク。2010年度の10周年記念事業ではベルリンのNGBKなどを調査、市民協働事業を更に推進する契機となった。2020年度の20周年には、次の10年に向けた提案を企画するため、準備として先進事例調査や公開ミーティングを実施する。					

2)経常事業

①市民文化事業への支援事業

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
5	**支援・助成・協力事業**	2回募集	―	20,903	20,024	市補助金 20,024
	市内で活動する団体・個人が行う文化芸術事業に対し、公募により広報支援、資金援助、その他の各種協力を行う。「支援事業」は、年4回発行の文化情報誌『季刊まちりょく』に市民企画事業の告知を掲載する広報サポート。「助成事業」は助成審査会を経て助成額を決定する事業。「協力事業」では、特に公益性の高い事業について、入場券の販売協力、人材の紹介や派遣、事務局への参画、文化施設等での各種協力などを行う。また、良質な文化事業に対し、事業団友の会会員への割引チケット斡旋などの協力を行う。					支援：約180件 助成：約140件 協力：約70件
6	**名義後援**	通年	―	0	0	
	団体・個人が行う文化芸術事業に対し、名義後援を行う。					

②公演事業

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入内訳・備考
7	**宝塚歌劇　星組　全国ツアー仙台公演**	5/18～19	仙台銀行ホール イズミティ21	27,090	42,090	入場料 41,240 広告料　350 その他　500
	仙台市民はもとより広域からの要望が高い事業として、宝塚歌劇公演の東北拠点となる仙台公演を実施。2日間・4ステージで第1部ミュージカル、第2部レヴューを上演する。					

8	**仙台クラシックフェスティバル2019**	10/4～6	日立システムズホール仙台他	86,200	83,400	市負担金 23,300 入場料 48,472 協賛金他 11,628
	2006年（平成18年）に事業団設立20周年記念事業として、敷居の高いクラシック音楽に親しみを持ってもらう、より多くの方々にホールで聴く生演奏の魅力を届けることを目的に立ち上げ、今年14回目を迎える。 ・ホール公演は、45分と60分の公演時間、チケットは1,000円～2,000円という手の届きやすい料金で、本格的なクラシック音楽を気軽に楽しんでもらう。地下鉄沿線の日立システムズホール仙台、仙台銀行ホール イズミティ21、エル・パーク仙台、太白区文化センターの4施設を会場として3日間で89の公演を設け、様々なジャンルのクラシックコンサートのはしご鑑賞を推奨する。 ・無料で鑑賞できる地下鉄駅コンサート、街なかコンサートを設けることにより、仙台市内にクラシック音楽があふれ、音楽の持つ力により、たくさんの方々に元気と希望、喜びを届けることのできるフェスティバルとする。 ・これまでの仙台国際音楽コンクール優勝者や仙台フィルメンバーの個性を活かした公演の他、設立30周年を迎える仙台ジュニアオーケストラOBOG等による記念公演など、仙台の音楽的財産が集結する仙台市市民文化事業団ならではの企画を盛り込む。					入場者： のべ38,000人
9	**もりのみやこのふれあいコンサート**	12/6	仙台銀行ホール イズミティ21	3,764	3,764	市補助金 3,764
	障害のある方とそのご家族・同行者の方などにオーケストラの演奏を楽しんでいただくとともに、芸術文化活動を振興することを目的に開催しているコンサート。仙台フィルハーモニー管弦楽団による親しみやすい演奏会で、回を重ねるごとに来場希望者が増えており、昨年は申込者多数により抽選を行った。平成26年度から会場を仙台銀行ホール イズミティ21大ホールとし、より多くの車椅子の方の受入れを可能とするとともに、仙台市立中学校の特別支援学級の生徒も招待している。事前申込制・無料。仙台市及び仙台フィルと共催。					入場者：1,100人
10	**青年文化センター活性化事業 重要無形文化財「組踊」特別鑑賞会**	1/26	日立システムズホール仙台	833	0	
	琉球王国時代に体系化され、ユネスコ無形文化遺産・国指定重要無形文化財に登録されている沖縄の伝統芸能「組踊」の仙台公演を行う。入場無料、事前申し込み制を予定している。					500人
11	**新春いずみ寄席**	1月上旬	仙台銀行ホール イズミティ21	3,193	2,888	入場料 2,888
	新春の看板事業として春風亭小朝師匠を招いて、東京の定席寄席と同規模の小ホールならではの臨場感のある落語寄席を実施する。13時～、16時～の1日2回公演を行う。					入場者：のべ790人
12	**共催事業**	通年	日立システムズホール仙台他	1,563	0	
	放送局等が行う公益性の高い文化事業を共催する。継続実施している仙台青葉能、文楽公演（負担金各500千円）に加え、当年度は仙台オペラ協会第44回公演（負担金1,600千円）、小山実稚恵ピアノシリーズ（負担金なし、年2回）、TAP DANCE ART PROJECT in Sendai～Tap the FUTURE～の通年ワークショップ（負担金なし）、東芝グランドコンサート、演劇公演「カリギュラ」（仙台放送、負担金なし）他を共催する。					

③ホール運営活性化事業

それぞれのホールが、その機能を十分に発揮する各種公演等を行うこと、そしてより地域に開かれた施設となるよう、さらには新たな利用の可能性を探るために各種事業を実施する。

13	**劇場・音楽堂等機能強化推進事業 （青年文化センター文化庁文化芸術振興費補助事業）**	通年	日立システムズホール仙台	101,096	95,429	入場料等 10,135 市負担金 45,573 文化庁助成金 39,721
	仙台市の文化芸術振興の中核施設として、育成・普及・創造の3つの社会的役割を果たす日立システムズホール仙台の発信事業。国からの補助金（文化芸術振興費補助金）を財源とした助成を受け、仙台市、（公財）仙台フィルハーモニー管弦楽団などと共催。 ＜人材養成事業＞ **①せんだいダンスプロジェクト**（6月～2月　練習室、アトリエ等）：未就学児の親子、小学生、中学生以上などプログラム毎に年代等の対象を設定し、ダンスに関する複数のプログラム実施により、多様な個性ある人材を育成する。 ＜普及啓発事業＞ **②故郷復興ソングのワークショップと青少年のためのオーケストラ鑑賞会**（鑑賞会：7月・10月　コンサートホール、ワークショップ：市内小学校8校）：市内小・中学校約220校をホールに招いて開催する本格的な演奏会（全14回）。管弦楽は仙台フィルハーモニー管弦楽団。また関連事業として市内小学校8校にて復興ソングを用いたワークショップを実施。 ＜公演事業＞ **③劇都仙台　ミュージカルプロデュース公演**（レッスン：4月～12月 練習室等、公演：12/7、8　シアターホール）：前年度より人材育成事業として、公募出演者によるミュージカル作品の制作、レッスン実施を継続しており、集大成として12月に作品を上演する。 **④劇都仙台　演劇プロデュース公演プレ企画**（2月　交流ホール）：2020年度実施予定の演劇プロデュース公演のプレ企画として、1時間程度のリーディング公演を実施する。併せて演出家とゲストのトークを予定。 **⑤Co.山田うん 2019年ツアー「話のない物語」（仮題）**（ワークショップ：10/16、17、公演：11/7　シアターホール）：人材養成事業「せんだいダンスプロジェクト」で講師として招へい予定の山田うん氏振付ダンス作品を上演。関連事業としてワークショップや演出家によるトークイベントも予定。 **⑥子供と大人のためのダンス公演「日本昔ばなしのダンス」**（9/27　シアターホール）：彩の国さいたま芸術劇場と連携し、古くから語り継がれる日本の昔ばなしをモチーフにした、子どもから大人まで楽しめるダンス公演を実施する。 **⑦名曲のちから「オーケストラ・スタンダード 全3回」**（1月、2月、3月　コンサートホール）：平成23年度からの継続企画。オーケストラ作品の名曲をリーズナブルな入場料で提供するシリーズコンサート。当年度は主に交響曲を取り上げ、ソリストには菊池洋子（ピアノ）等を招へい予定。 **⑧おとなとこどものためのクラシック入門「仙台フィルのクリスマスコンサート Vol.2」**（12/18　コンサートホール）：親子や三世代で楽しむことができる、クリスマスや冬の定番曲を集めたオーケストラ・コンサート。 ＜その他＞ **⑨青年文化センター事業評価**（通年）：PDCAサイクルと外部評価体制を確立し、事業の有効化をはかるため事業の評価を実施する。					

14	**青年文化センター活性化事業等**	通年	日立システムズホール仙台	3,291	291	参加料等　30 コピー料収入　261
	地域資源等を活用しながら、文化創造・交流拠点としての施設機能の充実と利用促進を図り、より市民に親しまれる施設に向けた事業を行う。 **①パフォーマンス広場活用プロジェクト（7月）**：当館の特徴的施設である自由空間を利用しているアーティストにスポットをあて、ジャンル複合イベントを実施し、同広場の創造拠点機能を発信するとともに利用者間の新たな関係構築を図る。 **②地域連携事業（通年）**：旭丘小学校の課外授業である「旭ヶ丘わんぱく森²がっこ」をはじめ、旭ヶ丘市民センター、近隣町内会など諸機関との連携協働を継続して推し進める。当年度は昨年度実施した施設の美化推進事業を発展させながら取り組む。 **③諸室・フリースペース活用事業（通年）**：フリースペース活用のための展示事業や、施設の利用促進を図るためのモデル事業を実施する。 **④国際交流(市民参加・体験・交流)事業（通年）**：各種講座や交流事業など市民参加・体験型事業を実施する。 **⑤インド政府派遣舞踊公演**：インド政府が派遣する優れた舞踊を紹介し、国際文化交流及び相互理解の推進を図る。 **⑥伝統文化・歴史遺産活用事業（準備）**：伝統文化や歴史的資源を活用した多様なコンテンツによる総合イベントをH32年度上期(10月から1年間の全館閉館による大規模改修工事の開始前)に実施することに向けての準備作業を行う。 **⑦こどもの夢ひろば“ポレロ”共催事業（7月）**：仙台市出身のピアニスト 小山実稚恵氏プロデュースによる子ども向けコンサートを中心とした体験型総合イベントを共催する。 **⑧共通経費・次年度調査事業（通年）**：次年度事業に向けた調査を実施する。 **⑨コピーサービス事業（通年）**：施設利用者用のサービスを継続して実施する。					⑨は収益事業
15	**泉文化創造センター 活性化事業**	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	2,298	1,110	入場料他 950 助成金　150 販売手数料収入 10
	ホール施設等の利用促進に向けた活性化事業。 **①市民協働によるロビーイベント**(年3回)：施設のカラーづくりとして普段直接観る機会の少ないジャンルを取り上げ、広く市民に紹介し、会館全体の活性化を図る。ホールの保守点検日に使用せずに空いているホールロビーを活用し、地域を拠点に活動する団体との協働で事業を実施する。当館のホールでイベントを実施する個人、団体に出演を依頼することも検討し、その場合には同イベント実施に向けての事前PRイベントとしての性格を持たせ、施設利用者に対する会館の広報支援の一助としても活用する。 **②ホール見学会**（1日2回公演）：普段目にする機会の少ない大ホールのバックステージを中心に、音響・照明等の機材の操作体験を行う参加型の見学会を実施する。小学生を対象にして開催し、親子で楽しみながら舞台に興味を持ってもらう内容とする。指定管理者グループ構成団体の㈱東北共立の舞台職員が企画段階から参画し、協働で運営する。 **③ピアノ弾き込みボランティア運営**（年3回程度）：大ホールのスタインウェイ社製コンサートグランドピアノを常時良好な状態に保つため、一定の演奏技術を持つ市民ボランティアの協力によりピアノ弾き込みを実施する。 **④市民ギャラリー・エントランスロビーでの展示**（市民ギャラリー／1回1週間程度、ロビー／通年）：地域に縁のある団体や個人との協働で写真または絵画等の展示を行う。市民ギャラリーの利用促進のためのモデル事業となるよう比較的簡易な設営で、鑑賞者に施設利用を喚起するよう工夫をする。また、館内の有料スペース以外の活性化のために、エントランスロビー等において時節に合わせた小規模な展示等を実施する。 **⑤ 小ホール企画**(2020年2月上旬)：仙台市泉区出身で在住の音楽家による音楽監修で良質なコンサートを開催、クラシック音楽鑑賞の楽しみ方を掘り下げて伝えていく幅広いプログラムを実施する。 **⑥泉中央地区プレイガイド事業**（通年）：利用者へのサービス向上と来場者への利便を図ると共に、文化イベントの普及促進に寄与するため、当館ホールを会場に実施されるイベントの入場券を受託販売する。また、仙台市市民文化事業団主催の入場券も併せて取り扱い、仙台国際音楽コンクールや仙台クラシックフェスティバルについては専用端末を用いて一般販売ならびに友の会先行販売に対応する。また、入場無料の整理券配布等については当館以外を会場とするイベントを含めて積極的に取り扱う。					⑥は収益事業

④ミュージアム活性化事業

ミュージアムの新たな魅力や個性づくりに向けた各種体験型事業やグッズ製作等を行い、来館者の増加や満足度の向上を図る。

16	**猿舞座のさるまわし**	6/9	榴岡公園 歴史民俗資料館	30	0	
	榴岡公園を会場として、山口県岩国市に拠点を置き全国を旅しながら猿まわし興行を行う猿舞座の12回目の公演。緑の下、人も猿もリラックスした雰囲気で伝統芸に親しむ。					参加者：800人
17	**れきみん秋祭り**	10/26、11/3	榴岡公園 歴史民俗資料館	2,863	1,439	助成金　1,393 刊行物販売　46
	歴史民俗資料館と10－BOXが共同で企画運営する「れきみん秋祭り」の14回目。「お神楽」「田植踊」「鹿踊」「剣舞」などの伝統芸能の競演と、仙台で守り継がれてきた伝統工芸の職人さんの手業の披露、併せてジャグリングやコマ回しなど、大人だけでなく各世代が同時に楽しめるイベントとして開催。					参加者：7,000人
18	**体験教室「親子でつくろう古代米」**	5月～11月	富沢遺跡保存館他	480	155	古代米販売 120 参加料　35
	富沢遺跡保存館に隣接する水田で古代米の栽培を行う。親子での協働作業を通じて、古代からの生業を体感するとともに、地域の歴史的な絆や親子の絆の深さを知る機会とする。また、近隣の小学校や地域と連携して事業を展開し、富沢遺跡保存館が地域活性化の拠点となることを目指す。当年度は、田植えから収穫まで計5回の活動日とし、歴史民俗資料館との連携も行いながら事業を行う。					

19	**冬キラ☆今日の主役は氷河期の森**	12月	富沢遺跡保存館	360	0	市指定管理料 20
	地底の森ミュージアム野外展示「氷河期の森」の利活用方法を開発し、推進するための事業。地域のイベントとしての定着と、地域の方々が参加しやすいかたちで「氷河期の森」の価値の共有や保全への共感を得ることを目的とする。昨年度より指定管理業務「たのしい地底の森教室」に結び付けて実施しており、これまで参加者から好評を頂いた閉館時間の施設・野外展示利用など、指定管理業務では実施が困難な内容を自主財源事業として実施する。					
20	**ミュージアム・シアター「狩人登場」**	通年	富沢遺跡保存館他	1,300	0	
	市内を中心に演劇等の表現活動をする「劇団　短距離男道ミサイル」の協力を得て、旧石器時代の狩人が登場するイベントを行う。ミュージアム・シアターの手法を導入することによって、考古学の知識や知的興奮に加え、当館での非日常的な空間を生かした特別な体験を提供することを目指す。これまでの活動を、館外も含めてより多面的に展開し、発表機会や発表媒体を拡充する。					
21	**施設広報開発事業**	通年	富沢遺跡保存館	730	0	
	写真および動画の撮影・編集にかかわるワークショップを複数回開催する。写真や動画を活用できるソーシャルネットワークサービス(SNS)の増加により、市民が情報の受信者であると同時に発信者となっている。市民目線の写真および動画は、閲覧者にとって具体的な施設利用の提案となり、来館を促すと考えられる。参加者には施設の魅力を見つけ出して作品を制作してもらい、その作品は館のホームページなどで公開する。これまでおこなってきたミュージアムフォトコンテストについては、作品展として継続する。					
22	**縄文祭復元事業「縄文まつり復元と創造プロジェクト」**	通年	縄文の森広場	2,000	300	助成金　300
	縄文人の暮らしの中で行われていたであろう、「まつり」の復元と創造を目指してこれまで調査研究活動を行ってきた。平成29・30年度には、市民と一緒に「草舟づくり体験」を行い、乗船体験した。また、調査研究活動の成果を公開するイベントとして、「縄文人の記憶の宴」を実施した。本イベントは、縄文時代をイメージした演奏・舞・食・火をテーマに、市内の劇団員や市民が縄文人に扮して巨大な火祭り・縄文の音楽・踊りを行ったものである。当年度も引き続き、「草舟づくり体験」・「縄文人の記憶の宴」のイベントを継続して行う。					
23	**学校・地域連携促進事業「縄文まるかじり」**	通年	縄文の森広場	800	0	
	平成28年度から「ドッキーをつくろう」と題し、山田上ノ台遺跡出土土器の特徴を知ってもらい、お菓子づくり考古学者下島綾美氏を招いて土器片そっくりのクッキー「ドッキー」づくりを通じて山田上ノ台遺跡および縄文文化について学ぶイベントを近隣の上野山児童館と連携して実施してきた。また、オリジナルメニューの開発として、3次元計測によるミニチュアの土器型を製作し、縄文土器チョコづくりを実施した。当年度も引き続き、こうした楽しみながら縄文文化に触れられるイベントを行う。					
24	**仙台文学館まつり**	8/25	仙台文学館	270	20	参加料　20
	平成21年度に開催して大変好評であった「吉里吉里国まつり」を「文学館まつり」として継続して開催。文学館に一層親しんでもらう企画とする。夏休みのこども文学館の時期に合わせ、子どもを視野に入れたステージやスタンプラリーを実施。秋以降の企画に繋げ、リピーターを増やす工夫をする。					
25	**ミュージアムシアター　展示室劇場**	冬期	仙台文学館	330	0	
	仙台文学館の常設展示の柱である、土井晩翠と島崎藤村について、より積極的に紹介する試みとして、二人の生涯を短い演劇に仕立てて展示室内で上演する。来館者が立体的に二人を感じ、興味関心を深める手助けとするとともに、この手法を通じて文学と演劇の新しい魅力や楽しみ方を提案する。事業団設立30周年事業の取り組みを継続し、文学館常設展示に対する市民の興味関心をさらに促す。					
26	**smtホスピタリティ向上事業**	通年	メディアテーク	500	0	
	①親子のための居場所づくり支援事業 ：子育て世代の親子連れや児童・生徒の利用促進に向け、館内の様々な空間を魅力的に演出・活用する「場」づくりを行う。オープンスクエアでの「こどもスクエア」など。 **②メディア活用による2階映像音響ライブラリー活性化事業：** 2階映像音響ライブラリーとシアターの連動を図る活用モデル事業。映画文化の活性化、利用者間の交流を通じ、「our library & theatre（我らがライブラリー&シアター）」という意識をもつ利用者を育む。通年開催。 **③オープンスクエアでの音楽系事業：** オープンスクエアにピアノを設置し、来館者に自由に弾いてもらう。客席は設けず、『往来に突然現れるピアノと音楽』としてオープンスクエア空き日に実施する。【参考】オープンピアノ、駅ピアノ、空港ピアノ					
27	**コミュニティ・アーカイブ・ラボラトリー（仮称）**	通年	メディアテーク	500	0	
	市民による草の根的なアーカイブ活動を示す「コミュニティ・アーカイブ」という視点をもって、協働事業について、参加する市民あるいは専門家、実践的あるいは研究的視点などさまざまな角度で分析、広く共有していく小冊子(ZINE)を作成、今後さらに市民協働による事業を推進していくための批評を行っていく。また、小冊子の作成を通じて、市民が地域文化をアーカイブしていくことの価値について、広く共有する機会を創出する。					
28	**ミュージアムグッズ開発・販売事業**	通年	各ミュージアム他	1,279	1,482	刊行物販売　1,220 その他　262
	ミュージアム来館者への記念品として、かつ普及の手法として、ブランドの向上や収入確保も目指し、施設の特性や資源を生かしたオリジナルグッズの開発を行う。 **①歴史民俗資料館グッズ**：昭和22年復興新仙台地図、昭和27年仙台地図、昭和4年および昭和8年仙台商工地図・大正15年仙台地図、仙台城下絵図の継続販売と、新規復刻地図の制作販売。（支出307千円、収入500千円） **②富沢遺跡保存館グッズ**：氷河期の森で採取した素材を活用したグッズ（氷河期の森の仲間たち・氷河期の森標本シリーズ等）、編布グッズ（コースター・しおり・ミサンガ・ストラップ）を販売。（支出85千円、収入85千円） **③縄文の森広場グッズ**：縄文の森広場ボランティアスタッフによるオリジナルグッズの製作と開発。（支出185千円、収入185千円） **④仙台文学館グッズ**：前年度までに制作し来館の記念などとして人気の高いしおり・クリアフィルなどを継続販売する他、在仙のクリエイター、アーティストに、敷地内の自然をイメージしたグッズ「フォレストシリーズ」の制作を依頼し来館者のニーズに応える。（支出240千円、収入250千円） **⑤メディアテークグッズ**：ミュージアムショップ等と共同開発してきたオリジナルグッズの継続販売と新規制作を行う。（支出462千円、収入462千円）					収益事業 *収支は損益ベース

⑤劇都仙台2019事業

都市文化を支える芸術としての演劇の総合性と公益性を背景に、仙台市と共催のもと、各種振興事業を以下①～⑤の体系に基づき実施する。
①良質な公演の機会の拡大　②表現者の発掘・育成　③活動を始める市民への窓口やネットワークの支援　④教育や福祉など他ジャンルとの連携　⑤情報交流や協働

29	**市民能楽講座**	12/1	日立システムズホール仙台	3,990	3,990	市負担金 2,350 入場料 1,640
	能の公演を通して市民に伝統芸能の魅力を伝える企画として継続実施している事業。「能楽」をわかりやすく、気軽に楽しみながら学べる事業として、仙台市と仙台市能楽振興協会との共催により実施。当年度は、宝生流「通小町」能公演を実施。					入場者:472人
30	**舞台スタッフ☆ラボ**	7月～8月	演劇工房10-BOX他	1,623	1,623	市補助金 808 受講料 165 助成金他 650
	舞台監督・音響・照明・舞台美術・衣装・小道具部門の基礎コースや、演劇公演のスタッフワークを体験する発展・創作コースなど、新規部門の開設や、新たな組織・団体と連携し、参加者の声を反映しながら実施。だれもが舞台芸術や表現の楽しさと奥深さに触れる機会を体験でき、更なる人材育成と市民活動・舞台芸術活動の活性化を目指す。宮城野区文化センターとの共催により開催。					対象者:50人 観客:100人
31	**10-BOX鑑賞型プログラム**	通年	演劇工房10-BOX他	5,791	4,551	市補助金　4,251 入場料　300
	①劇都・仙台演劇祭: 日々演劇やダンスパフォーマンスなどに触れる機会が得にくい方、会場に足を運べない方にも参加や鑑賞がしやすい、開かれた演劇祭を目指すため、出前プログラム・創作プログラム・鑑賞プログラムで構成。 **②「SENDAI OROSHIMACHI Art Marche(せんだい卸町アートマルシェ)」:** 県内外の先駆的な作品・評価の高い若手劇団の演目を一堂に集め、数日間の演劇祭を開催。 **③共催公演:** 鑑賞の機会を提供し、観客層の拡大につなげる。さらに、県外の劇団と在仙の演劇関係者との交流の場を創出し、在仙劇団の活動の幅を広げるもの。					対象者:のべ1,800人
32	**まなぶ・からだ-身体表現ワークショップ**	通年	演劇工房10-BOX他	948	948	市補助金 798 受講料 150
	身体表現に着目し、数日間にわたるワークショップを通して、舞台芸術を幅広く体験し多角的に学ぶ講座。講師は舞台(演劇、舞踊、古典芸能)、映画、映像など様々な分野の専門家から選抜し、独自の切り口を通して表現を体験する。					対象者:50人
33	**せんだい短編戯曲賞**	通年	演劇工房10-BOX他	2,007	2,007	市補助金 1,727 入場料280
	短編戯曲賞(第6回)のこれまでの大賞作品9作品の大賞受賞作家に執筆を依頼、作品の上演やトークなどを実施し、県内外に短編戯曲賞の周知を図るもの。					入場者200人
34	**能-BOX 経常事業**	通年	能-BOX	759	759	市補助金　654 受講料　105
	能楽施設「能-BOX」を活用し、能楽、他の古典芸能、民俗芸能など、和の文化への親しみと理解を深めるため、「こどものための能講座」(能楽師:山中迓晶)、「能のおけいこ体験講座」(仙台市能楽振興協会主催)などを行う。また、伝統舞台での表現の可能性を探る現代的なジャンルの催しも含め、利用者の開拓を図ってゆく。					対象者:70人
35	**共通経費(事業間連携活動等事務費)**	通年	演劇工房10-BOX他	1,402	266	市補助金 115 刊行物販売 151
	劇都仙台事業や教育・福祉など他の専門組織との協働事業等にかかる共通の経費。ホームページの更新費や発送料の支出、せんだい短編戯曲賞の冊子印刷・販売・次年度の事業の向けた視察や調査研究など、事業間連携活動に必要な業務。					
36	**演劇-社会アクセス事業**	通年	演劇工房10-BOX他	200	0	
	音響・照明等の機材貸出や、各団体の舞台芸術活動への協力を通して、舞台芸術による社会貢献の促進を図る活動。さらに、教育現場での演劇の次代の担い手を重点支援するため、小学校での学習発表会のサポートや高等学校演劇協議会による「仙台市高等学校演劇祭」を共催で実施する。					対象者:200人
37	**音声学ワークショップ**	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	磯貝メソッドに基づいた音声学講座。俳優の声と身体を見つめ直し、良い声を作るための呼吸法・発声法・発語法を学ぶ専門的なカリキュラムによる人材育成事業。プロのスキルの養成だけでなく、初心者の指導も行う。3月下旬には1年間学んだ成果を披露する発表公演を行う。事務局を担うIMS磯貝メソッド仙台塾と共催。					対象者:70人
38	**大衆紙芝居ネットワーク事業**	通年	演劇工房10-BOX他	0	0	
	当事業団が平成17年度に実施した「大衆紙芝居ワークショップ」の参加者による団体「大衆紙芝居ネットワーク」の自主活動(オリジナル作品の製作、上演、作品展など)に共催し、ロッカーの提供、作品の保管・貸出、機材提供などの協力を行う。					対象者:10人

⑥創造都市推進事業

仙台市との共催事業。市民が芸術文化に触れる機会を創出することで、魅力と活気あふれる都市づくりを推進する。

39	**地下鉄駅コンサート**	9/28～29、10/5～6	地下鉄駅構内	1,183	1,183	市負担金　1,183
	仙台クラシックフェスティバル関連事業として、市内及び周辺地域を活動拠点にしている団体等が出演する無料コンサートを、地下鉄仙台駅・旭ヶ丘駅構内で開催する。					

⑦2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた「仙台市文化プログラム」事業

40	**仙台市文化プログラム事業**	通年	—	5,755	5,755	市負担金 5,755
	①「仙台市文化プログラム」公募・共催事業：オリンピック・パラリンピックを契機として、地域の文化芸術分野における多様な資源を生かした事業を推進し、新たな成果を生み出すこと、そしてその取り組みや成果が一過性にとどまることなく2020年以降も継続的に波及効果をもたらすことを目指し、一般から公募した企画提案から選考により採択された事業を、企画提案者と仙台市、事業団の3者協働で実施する。 **②beyond2020プログラム認証事務**：仙台市が「beyond2020」認証組織となり、事業団はその認証事務の一部を担う。					

⑧東日本大震災10年に向けた「東北復興舞台芸術プロジェクト」事業

41	**東北復興舞台芸術プロジェクト**	6月～3月	日立システムズホール仙台、演劇工房10-BOX他	6,805	6,805	市負担金 6,805
	東日本大震災の記憶と経験をふまえ、過去・現在・未来を橋渡しする舞台芸術作品を創造・発信する舞台芸術フォーラムのモデル事業や基盤づくりを行う。当年度は、震災を主題にした舞台芸術作品の上演やトークイベント、一般公募によるフリンジ公演のほか、新たな制作やリサーチを行うアーティスト支援とその環境形成、アーカイブ・情報発信を実施し、大震災から10年を迎える2021年とそれ以降に向けて、文化芸術から震災伝承を担う人材の発掘と育成を行う。					

⑨育成・普及事業

子どもたちが芸術文化に触れる機会を広く提供するとともに、アーティスト及び指導者の育成を図る。

42	**芸術家派遣事業**	5月～2月	各学校・地域	0	0	
	「仙台市文化芸術による子供の育成事業実行委員会」が文化庁から業務受託し、学校や保育所等で子どもたちに文化活動や鑑賞の機会を提供する。前年度実績として120箇所に派遣実施。当財団は実行委員会事務局として、文化庁との調整、実務統括、会計等を行う。実行委員会の予算規模は1,700万円程度を見込んでいる。					
43	**若手オペラ歌手のためのワークショップ**	8/20～24	日立システムズホール仙台他	0	0	
	オペラバリトン歌手の小森輝彦主宰の団体「仙台オペラアカデミー」が実施する、若手声楽家や音大生などを対象としたワークショップ及び試演会を共催する。					
44	**東京藝術大学音楽学部早期教育プロジェクト**	11/16,17、2/16	日立システムズホール仙台	1,294	0	
	仙台及び東北地域における音楽教育の振興のため、東京藝大、仙台市、仙台市市民文化事業団の共同主催により、事業団設立30周年記念事業として始まった。平成31年度はピアノ、ヴァイオリン、金管楽器の3部門を実施予定。日本最高レベルの音楽教育に触れることで、地域で音楽に取り組む子どもたちのモチベーション及び技術の向上、地域で音楽教育に取り組む指導者の指導力向上、音楽教育・演奏技術への市民の理解を深める催しとする。					受講生：70人 入場者：1,050人
45	**文学館で言葉を楽しもう**	通年	各学校・地域	350	0	
	小・中学校の児童生徒に、仙台文学館施設への興味、文学への興味関心を惹起し、感性や表現力、知識を深めることに力点を置いたプログラム。常設展示で紹介されている文学のことばを耳で聞いたりして味わい楽しむワークショップや、市内のお話し会活動をしている団体の協力を得て民話語りの奥深さを味わってもらうようなカリキュラムを実践。バスを手配し平日の授業枠における文学館への来館・利用のハードルを低くすることで、市内小・中学校の文学館利用を促し、かつ利用した児童生徒の保護者層にも来館を促す契機とする。					

⑩出版事業

事業団の事業成果を出版。仙台発の編集文化の発信にも寄与する。

46	**出版物の販売継続事業**	通年	—	14	95	刊行物販売 95
	①仙台文学館刊行物販売事業：『仙台本のはなし24人でつくりました』『仙台で夏目漱石を読む』『瀬戸内寂聴　生きることは愛すること』『ユキユキドンドン　スズキヘキ詩集』など、仙台文学館ゼミナールの成果品や講義録、また仙台文学館選書として出版したものを、継続して販売。（支出0、収入60） **②『仙台戯曲賞シリーズ』販売事業**：『仙台戯曲賞シリーズ』01～04を窓口販売の他、webサイトからの申込みにより継続販売する。販売価格は1,080円（税別）。（支出8、収入11） **③『文化芸術の社会再生力』販売事業**：事業団設立20周年事業記念連続シンポジウム「文化芸術は成熟社会の再生力」における鼎談と講演録を採録したブックレットを継続販売する。（支出1、収入4） **④『RE:プロジェクト記録集』販売事業**：平成23年度から27年度まで実施した事業「RE：プロジェクト」の、これまでの成果物（『RE：プロジェクト通信』『5年目のRE：プロジェクト通信』）に活動の記録や振り返りを加えて1冊にまとめた本を継続販売する。（支出5、収入20）					

⑪広報事業等

47	**広報事業**	通年	—	7,626	4,903	市補助金 4,903
	文化情報誌『季刊まちりょく』の発行（年4回）を継続する。当財団の活動や各種外部事業情報に加え、仙台における文化領域の動向を広く市民に広報・紹介していく。また当年度は時代のニーズに即しホームページのリニューアルを行い、発信力の強化を図るほか、報道機関等への情報提供を随時行う。					
48	**市民文化事業団友の会運営**	通年	—	3,360	1,700	友の会会費 1,700
	市民の芸術・文化鑑賞機会の維持拡大を図るため、友の会組織の運営を継続する。月例通信「市民ぶんかレター」による当事業団事業他の広報、主催及び協力事業への先行サービスの提供等。年会費1,000円。					会員：約1,700人
49	**事業団事業全体にかかる共通事務費**	通年	—	3,604	0	
	事業全体の調整、新事業の調査・企画、事業評価、職員研修、臨時的人件費、チケット販売業務等の事務経費等。					

(2)コンクール運営事業

①仙台国際音楽コンクール事業

第7回仙台国際音楽コンクールを開催する。

50	**事務局運営**	通年	日立システムズホール仙台	16,544	16,544	市負担金 16,544
	コンクール事務局の運営を行う。					
51	**委員会運営**	通年	仙台市内・東京都内	7,533	7,533	市負担金 7,533
	組織委員会、運営委員会、企画推進委員会を開催する。					
52	**コンクール事業**	通年	日立システムズホール仙台	227,096	227,096	市負担金 182,588 入場料等 44,508
	第7回コンクール・ピアノ部門を5月25日から6月9日に開催。ヴァイオリン部門を6月15日から6月30日に開催する。39の国と地域から467名の申込があり、動画データ等による予備審査を通過したピアノ部門42名、ヴァイオリン部門40名が参加予定。					
53	**広報事業**	通年	日立システムズホール仙台	41,961	41,961	市負担金 41,961
	コンクール開催に係る広報活動及び開催期間の会場装飾等を行う。 また、審査の模様をインターネットでライブ及びアーカイブ配信する。					
54	**ボランティア事業**	通年	日立システムズホール仙台	3,409	3,409	市負担金 3,312 その他 97
	第7回コンクールに係るボランティア活動の事務局業務を行う。 ・ボランティアリーダーミーティングの開催 ・会場運営サポート:コンクール及び関連事業等の会場運営 ・広報宣伝サポート:ボランティアニュース「コンチェルト」発行、「Map for The SIMC Contestants」(Web版及び印刷物)発行、ボランティアブログ運営 ・出場者サポート:コンクール期間中の出場者に対する通訳サポート、コンクール出場者出演コンサートの通訳、交流サロン運営等 ・ホームステイ受入れ:コンクール出場終了後の出場者を対象としたホームステイの受入れ及び受入れ出場者の演奏サポート ・市民が企画するコンクール出場者出演コンサートの運営サポート					
55	**第6回仙台国際音楽コンクール 優勝者副賞コンサート**	通年	東京都他	11,368	11,368	市負担金 10,392 出演料等 976
	第6回コンクール優勝者には副賞提供期間である2019年12月まで国内オーケストラの演奏会に出演する機会を提供する。また、第7回コンクール優勝者については国内オーケストラの演奏会に出演する機会の提供やCDの制作・販売を行う。					
56	**仙台国際音楽コンクール関連事業**	通年	市内各所	5,739	5,739	市負担金 5,739
	【第7回コンクール開催期間中】 ・審査委員によるマスタークラスを開催する。 ・予選・セミファイナルを通過しなかった出場者による「チャレンジャーズ・ライヴ」及び「学校訪問ミニ・コンサート」を開催する。 【第7回コンクール後】 ・仙台・宮城の若い音楽家の育成とクラシック音楽鑑賞の普及等を目的に、市内各地を会場に街かどコンサートを開催する。					

(3)ジュニアオーケストラ運営事業

57	**仙台ジュニアオーケストラ運営**	通年	日立システムズホール仙台他	29,587	29,587	市負担金 17,035 受講料・入場料等 12,552
	・仙台ジュニアオーケストラを仙台市と共同で主管する。 ・通年の練習等の指導は、仙台フィルハーモニー管弦楽団に委託する。 ・8月に夏合宿を行う。 ・10月に「定期演奏会」を開催する。 ・3月に「設立30周年記念スプリングコンサート」を開催する。					団員定員:122人

(4)演劇系練習施設運営事業

58	**せんだい演劇工房10-BOX運営**	通年	演劇工房10－BOX 能－BOX	27,566	27,566	市補助金 19,970 利用料等 7,596
	「試しながらじっくり演劇を作る空間」をコンセプトに、独自のスペース・設備などを弾力的な利用システムにより貸出し、仙台における演劇及びその周辺の表現活動を直接的に支援していく。加えて、「劇都仙台」各事業との一体的な運営によって、市民の文化芸術活動を支えていく。また、民間より寄贈を受けた能舞台を仙台卸商センターの倉庫に移築した、別館「能-BOX」の運営を行う。					収益事業を含む

(5)震災メモリアル交流施設運営事業

59	せんだい3.11メモリアル交流館運営	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	61,518	61,518	市受託料 61,468 受講料 50
	地下鉄東西線荒井駅舎に併設され、平成28年2月に開館した「せんだい3.11メモリアル交流館」の運営(①来館者の対応 ②事業の実施 ③管理業務の一部)を、職員常駐の枠組みとして、仙台市まちづくり政策局からの委託事業として行う。「震災の被害や状況を知り、その経験や教訓を学ぶ場」「東部沿岸地域の記憶を残し、継続的に地域再生への力を形成していく場」「東部沿岸地域への案内所・発着点」としての施設機能をもち、様々な来館者・市民・住民の集う親しみやすい運営に努める。上記のような施設機能を実現するため、下記の事業を実施する。 ・企画展(年3回程度) ・震災復興メモリアルや地域の魅力発信にかかるワークショップ・講座等 ・館の運営に資する情報の収集 ・紙媒体、ホームページ等による情報発信(企画展やイベントの実施報告含む)					
60	せんだい3.11メモリアル交流館販売業務	通年	せんだい3.11メモリアル交流館	448	448	市受託料 448
	せんだい3.11メモリアル交流館の施設機能及び知名度の向上を目的とする物品の販売を実施するにあたり、販売関連業務及び売上管理に係る人員の配置と消耗品の購入等を行う。					

(6)芸術文化受託事業

(単位;千円)

61	市制施行130周年記念コンサート	7/1	仙台銀行ホール イズミティ21	4,320	4,320	市受託料 4,320
	仙台市の市制施行記念式典の一環として開催する仙台フィルハーモニー管弦楽団の演奏会。ソリストには130周年の節目にふさわしく、第3回仙台国際音楽コンクールピアノ部門優勝者であり、国内外での活躍も目覚ましい仙台市出身の津田裕也さんを迎える。					入場者:1,400人
62	せんだいメディアテーク震災アーカイブ運営	通年	メディアテーク	14,997	14,997	市受託料 14,997
	大震災を受け、震災とその復旧・復興の過程を、市民・専門家・スタッフが協働して記録・発信し、「震災の記録・市民協働アーカイブ」として、整理・保存する取り組み「3がつ11にちをわすれないためにセンター」の運営。具体的には、①写真や映像等で記録し、②資料活用に向け、アクセス可能なメタデータなどを整備し保管する。③収集した資料の一部を、ウェブサイトを通じ配信し、④ライブラリーへの配架、上映会や展覧会の開催など、さまざまな形で利活用する。					

2.定款第4条第2号の事業(文化芸術等に関する普及啓発及び情報発信)

番号	事 業 名		期 日	会 場	支出	収入	収入備考
	事業内容						入場者数等見込・備考

(単位;千円)

①仙台文学館普及啓発事業

63	特別展・企画展の関連事業	各展示の開催時期	仙台文学館	683	683	市補助金 375 販売手数料 308
	特別展・企画展の会期中に、展示テーマに関連する様々なイベントを開催し、文学のより深い魅力を伝えていく。 **①特別展「井上ひさしの劇列車Ⅰ期・Ⅱ期」関連**:市内演劇人による井上作品の展示室リーディングや、学芸員による展示解説、「私の好きな井上作品」などの参加型イベントを開催。 **②「こども文学館 えほんのひろば スズキコージの世界展(仮)」関連**:市内で活動するグループによるお話会や、読み聞かせワークショップ、手作り教室を開催する。 **③特別展「斎藤茂吉展(仮)」関連**:学芸員による展示解説などを実施する。					
64	ことばの祭典ー 短歌・俳句・川柳への誘い	6/17	仙台文学館	464	464	市補助金 464
	短歌、俳句、川柳の3部門による合同吟行会。文学館の敷地内を中心に吟行し、当日発表される題に沿って作られた作品から「ことばの祭典賞」を選ぶ。					
65	土井晩翠顕彰事業	通年	ー	1,039	1,039	市負担金 1,000 刊行物販売 39
	平成29年度末をもって解散した土井晩翠顕彰会の事業を引き継ぎ、詩人・土井晩翠の業績と遺徳を顕彰する事業を行う。具体的には、晩翠わかば賞・あおば賞の募集と賞の贈呈、ならびに毎年10月19日の土井晩翠の命日に、「荒城の月市民大合唱」をなどを実施するとともに、晩翠草堂の展示品の管理と展示内容の充実に努める。					
66	文学講座、講演会等の開催	通年	仙台文学館	2,709	2,709	市補助金 79 受講料 2,630
	文学を豊かに味わう、深く学ぶ、自ら表現するといった主体的なニーズに応え、幅広いテーマによる講座や参加型イベントなどを実施し、文学の振興を図る。 **①小池光短歌講座**:館長の歌人・小池光による短歌の鑑賞と実作指導の連続講座。通年で10回の開催を予定。 **②仙台文学館ゼミナール**:近代文学を読み解くコース、現代文学を探究するコース、古典に親しむコース、表現をみがくコースなどの部門を設け、各講座をそれぞれ3～5回連続で開催する。 **③仙台朗読祭、詩のリーディングイベントなど**:広く一般市民に参加を募り、思い思いの作品を自由に朗読してもらう仙台朗読祭や、地元詩人によるポエトリーディングなど、文学作品の朗読イベント。					
67	教育機関・関係者との連携事業	通年	仙台文学館	155	155	市補助金 155
	県内高等学校の文芸部の活動を支援するほか、図書室や国語を担当する教員への研修機会の提供、小中高を通しての調べ学習への協力等を随時行っていく。また、小中学生に向けた常設展示の内容を学ぶためのワークシート配布を継続する。					

68	**学芸員出前講座**	通年	—	0	0	
	市内を中心に近隣の学校や市民センターなどに学芸員が出向き、宮城の文学やこれまでの企画展で取り上げた文学者についての講座を行う。					
69	**情報誌の発行**	通年	—	1,186	1,186	市補助金　1,186
	文学に関する話題を幅広く発信していく情報誌の発行を継続する。文学者からの寄稿のほか、仙台の新しい文学を取り上げた企画等内容の充実を図る。					
70	**こどもの本の部屋の運営**	通年	仙台文学館	0	0	
	絵本を中心にこどもの本を自由に読んでもらうコーナー。文学館の展示観覧は難しい小さなこどもたちも、保護者とともに楽しめるように、本の入れ替えなども行い活性化を図っていく。「こどもの本の部屋」を会場とした、近隣児童館との連携による乳幼児向け事業も実施する。					
71	**文学館友の会の支援**	通年	—	0	0	
	会の事務局を担当し、文学館との共催事業や見学会の開催、会報の発行などを実施。					
72	**出版物等の販売**	通年	—	255	255	市補助金　41 刊行物販売　214
	小池光短歌講座の記録集を制作・販売する。また、平成16年度に発行した文学館選書『天地有情』の他、企画展関連の物品も館内で継続して販売する。					

3.定款第4条第5号の事業（文化芸術等に関する生涯学習の支援）

番号	事　業　名		期　日	会　場	支出	収入	収入備考
	事業内容						入場者数等見込・備考

（単位；千円）

①せんだいメディアテーク　展覧会等総合事業						
73	**せんだい・アート・ノード・プロジェクト**	通年	メディアテーク	31,500	31,500	市補助金　30,000 助成金　1,500
	優れた現代アートのもつ発見性、吸引力、発信力を取り込みながら、市民とともに地域が抱える課題に向き合うアートプロジェクトを展開することで、まちの魅力と人々の活気を引き出し、文化都市仙台を発信する。「川俣正/仙台インプログレス」や「東北リサーチとアートセンター」でのアーティストによるプロジェクト、人材育成、市民啓発のための「TALK」や「アートノード・ミーティング」などの事業とこれらに伴う情報発信やアーカイブを行う。					
74	**展覧会事業**	通年	メディアテーク	16,300	16,300	市補助金　7,300 入場料　1,000 助成金　8,000
	主題「ナラティブの修復」を象徴する事業として、アーティストと協働し、今日的な社会の課題や哲学的な問いを表現によって投げかける展覧会。廃棄された家具などを「修復」することで新たな形態を生み出す仙台の美術家、青野文昭の個展。震災から現在までの表現を集めた集大成としての展覧会。					
75	**スタジオ情報発信/地域文化アーカイブ**	通年	メディアテーク	4,500	4,500	市補助金　2,000 助成金　2,500
	市民間の交流、対話を促進するための対話の場／機会／メディアを用意する。 ＜スタジオ情報発信＞ 「考えるテーブル」など、誰もが参加可能な対話型公開会議などを中心に、市民力を醸成し、市民の主体的な社会参画が文化面から活性化していくことを目指すとともに、さまざまな市民の文化活動と協働する事業を行う。 ＜地域文化アーカイブ＞ 市民による自発的な地域文化財のデジタル化により、保存、活用を促す取り組む事業を実施する。成果物は、メディアテークに保管され、ライブラリーへの配架やウェブサイト等での発信などにより、広く市民に活用される財産とする。また、それらをもとにした小規模な展示を行うことで、仙台市域のさまざまな文化活動へのより広く深い市民の関心を促す。					
76	**発信・施設活用推進**	通年	メディアテーク	4,429	4,429	市補助金　4,029 刊行物等販売　400
	各種団体との連携を通じ地域におる役割を担うとともに、市民図書館を含めたメディアテークの総合的な情報アクセス機能の活性を促し、常に時勢に応じた魅力あるメディアテークを展開していく。 **①バリアフリー・デザイン事業**：目や耳の不自由な人々の主体的な情報アクセスを促進するための点字翻訳、音声解説、字幕制作等のデータ作成を市民との協働で行う。成果物を活用した上映会等の開催、作成に関わる人材の育成、技術向上に向けた一連の取り組みを行う。 **②館長発信事業**：発信力のある鷲田清一館長を軸に、著名なゲストとのトークの開催を通じ、市民のニーズをつかみつつ、メディアテーク全体の新しい姿を示していく。併せて、館長の動向を伝える情報発信なども行い、より広い理解へと努める。 **③地域文化連携・施設活用推進**：各種団体との協働や連携・ネットワークを用い、地域におけるメディアテークの役割を担いつつ、オープンスクエア、ギャラリー、シアター、ライブラリーなど館全体の機能を活かしたイベントや展示や上映会など多様な活用事例を示していく。さらに、市民図書館とのイベント等の各種連携を通じ、より広い関心を集め、交流を促進する機会をつくる。 また、取り組みがひろく市民に届くよう定期的な広報、啓発、情報発信に努め、次年度事業にまつわる調査を通じ、時勢に敏感に応じた事業に取り組んでいく。					

4.定款第4条第1号、第2号、第3号、第4号、第5号及び第6号の事業（市民の文化芸術及び郷土の歴史に関する活動等の支援及び育成、普及啓発及び情報発信、交流及び協働の促進、資料の収集、保管及び調査研究、生涯学習の支援、文化施設及び生涯学習施設の管理運営）

番号	事　業　名	期　日	会　場	支出	収入	収入備考
	事業内容					入場者数等見込・備考

（単位；千円）

(1)仙台市歴史民俗資料館 管理運営・調査研究・普及啓発事業

番号	事業名	期日	会場	支出	収入	収入備考
77	**仙台市歴史民俗資料館 管理運営**	通年	歴史民俗資料館	66,736	66,736	市指定管理料 66,736
	歴史や民俗に関する展示等を行い、学校教育や生涯学習活動を支援する場所として、仙台市有形文化財である本館建物の維持管理を行う。					
78	**仙台市歴史民俗資料館 常設展示**	通年	歴史民俗資料館	267	267	市指定管理料 267
	「仙台地方の農具と農家の暮らし」「仙台 町場の暮らし」「旧歩兵第四連隊コーナー」「体験学習室」に加え、「花見」「仙台の正月」等のミニ展示をロビー及び展示室で展示紹介する。また、震災関連展示を行う。					
①特別展・企画展及び関連事業						
79	**企画展「子どもの世界」**	4/27～7/15	歴史民俗資料館	257	257	市指定管理料 257
	子どもは「七歳までは神のうち」といわれ、「ヒト」と「カミ」の仲立ちをすると考えられ、様々な形で祭りなどに参加してきた。本企画展では年中行事や祭りなどに参加する子どもたちや遊びなどを紹介し、子どもの世界について考えていく。					
80	**企画展「戦争と庶民のくらし5」**	7/27～11/10	歴史民俗資料館	1,514	1,514	市指定管理料 1,514
	仙台地方を中心に戦争と庶民のかかわりについて考えていく。軍都仙台の成立、西南戦争、日清戦争、日露戦争、第一世界大戦、満洲事変、日中戦争、第二次世界大戦、戦時下のくらし、米軍占領期などにおける資料を通して、戦前、戦中、戦後の移り変わりを明らかにしていく。					
81	**特別展「堤焼と堤人形」**	11/23～4/12	歴史民俗資料館	1,755	1,755	市指定管理料 1,755
	300年以上の歴史を持つ堤焼と伝統的工芸品として親しまれてきた堤人形について館蔵資料を中心に展示し、生活の道具あるいは愛玩品として人々のくらしに深くかかわっていた様子を紹介する。また堤焼職人の関善内が残した堤人形の下絵や堤焼の製造工程の絵画資料もあわせて展示し、仙台郊外で作られていた堤焼と堤人形の変遷を明らかにしていく。					
82	**講座・体験イベント等**	通年	歴史民俗資料館	97	97	市指定管理料 97
	①資料館サポーター養成講座（7月～3月）：「資料館の魅力について～展示・収集・調査研究・教育普及～」のタイトルで、資料館の事業活動や資料の活用方法を考えながら、民俗文化財や歴史資料の意義をとらえ、参加者のさまざまな活動につながっていくことをめざす。 **②子ども講座**（7月、1月、3月）：おもに小学生を対象に、仙台地方の歴史や民俗をわかりやすく解説するために紙しばいの講座を開催する。 **③ゴールデンウィーク「おもしろ昔たいけん」**（4/27～5/6までの7日間）：なつかしい玩具「竹とんぼ、水鉄砲」のボランティア講師による製作実演や、生活用具「石臼ひき」、こままわし、フラフープ、ホッピングなどの遊びを体験する。 **④クイズラリー**（夏休み・冬休み）：クイズやパズル形式での自主見学学習。 **⑤たんけん資料館「れきみんバックヤード・ツアー」**（8月、10月、2月）：展示室、収蔵庫や資料整理室など普段見ることができない資料館のバックヤードを学芸員が解説案内する見学会を開催する。 **⑥ホームムービーの日**(10/20)：家庭に埋もれているフィルムを持ち寄り地域の貴重な映像を発掘し、公開する。					
83	**資料館だより等の発行（その他の事業）**	通年	歴史民俗資料館	148	148	市指定管理料 148
	資料館だよりの制作や、資料館の活動チラシを作成し、学校、町内会、関係各所、入館者への配布を行い資料館を利用した社会科学習に資する。					
84	**歴史民俗資料の収集・保管**	通年	歴史民俗資料館	1,382	1,382	市指定管理料 1,382
	資料の有効活用を図るための整理・修復作業を行うとともに、資料台帳のデジタル化を推進し、「資料集」をまとめ刊行する。					
85	**調査報告書等の発行**	通年	歴史民俗資料館	1,083	1,083	市指定管理料 1,083
	仙台地域を中心に民俗（民間伝承）、近現代の庶民生活に係る「聞き書き」等の調査を実施し、「調査報告書」にまとめ、刊行する。また館蔵資料の公開、活用のため「資料集」を編集・刊行する。					
86	**学校教育との連携**	通年	歴史民俗資料館	0	0	市指定管理料 0
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。小学校3年生社会科の学習および総合的な学習の際、年間100校を超える市内外の学校が見学に訪れ、石臼挽きなどを体験をする。8月には、学芸員資格を目指す大学生の単位取得のために必要な実務実習を受入れ、11月には、近隣中学校より職場体験の生徒の受け入れを実施する。					

(2)仙台市富沢遺跡保存館　管理運営・調査研究・普及啓発事業

87	**仙台市富沢遺跡保存館 管理運営**	通年	富沢遺跡保存館	89,758	89,758	市指定管理料 89,758
	旧石器時代に関連する展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習活動を支援する場として、富沢遺跡保存館を維持管理する。					
88	**仙台市富沢遺跡保存館 常設展示**	通年	富沢遺跡保存館	13,506	13,506	市指定管理料13,506
	地下1階の富沢遺跡の発掘調査面の展示、1階での調査結果の展示、及び「氷河期の森」(植生復元)の野外展示を総合的に行う。					
①特別展・企画展						
89	**企画展「仙台の遺跡めぐり　古代びとの道具箱」**	4/19～6/16	富沢遺跡保存館	61	61	市指定管理料　61
	近年、仙台市内の発掘調査が進み、多くの調査成果が蓄積されている。春季企画展は、仙台市内の遺跡から出土した資料を中心に、身近な文化財を紹介するシリーズとして開催している。今回は仙台平野の古墳時代終末期～奈良時代の遺跡から見つかった道具を中心に、最近話題となった赤井遺跡(東松島市)、原遺跡(岩沼市)の発掘調査成果なども紹介する。					
90	**特別企画展「仙台のたから」(仮称)**	7/19～9/23	富沢遺跡保存館	2,253	2,253	市指定管理料　2,253
	仙台市内の遺跡でみつかった旧石器時代から古代にかけての代表的な資料をもとにし、東北地方や関東地方の遺跡出土品との類似性や産地などから当時の交流と仙台の地が果たした機能や役割を考える					
91	**企画展「土器の考古学」(仮)**	10/25～12/15	富沢遺跡保存館	123	123	市指定管理料 123
	仙台市内の遺跡から出土した土器の特徴等を中心として、関連資料やパネルの展示を通して市民の理解を深める。					
92	**企画展「もりの風景2019」(仮)**	1/15～3/15	富沢遺跡保存館	28	28	市指定管理料　28
	富沢遺跡保存館で行われた当年度事業と、ボランティア会などの活動成果を紹介するとともに、自主財源事業「施設広報開発事業」で参加者が作成した作品を展示する。					
93	**講座・体験イベント・ボランティア事業等**	通年	富沢遺跡保存館	1,221	1,221	市指定管理料 1,221
	①地底の森フェスタ2019(10/14):屋外を会場とし自由参加の形態で開催する。石器を作る、石器を使う、火起こしをする、槍を投げるなどの体験活動を行う。ボランティア会とともに企画実施。 **②考古学講座**(11/23、1/25):考古学や環境に関するテーマについて多方面から様々な視点で最新の成果を紹介する、一般市民を対象とした講座。 **③たのしい地底の森教室**(通年):当館スタッフが、富沢遺跡発掘の成果や「氷河期の森」の植物の説明、石器づくりなどのモノづくり体験を行い、古代人の技術や地底の森ミュージアムの特性を紹介する活動を行う。また、「冬キラ」や「森を育てる」など、これまで自主財源事業として実施し好評を得た事業も行い、施設の魅力を多様な観点から紹介する事業として位置付ける。土・日・祝を中心に毎月1～2回程度実施。 **④利用学習事業**(通年):小・中学校(小学校5・6年生及び中学校1年生)を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に活用する利用学習授業を実施する。授業内容は館内外の見学と石器づくり等の体験学習。実施後、実践内容はウェブサイトで公開し、次年度の活動に活かしていく。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から分館・縄文の森広場の同事業と連携して行う。 **⑤市民文化財研究員育成**(通年):考古学に対する市民の学習活動を支援するため、公募による10名を対象に、1年間にわたり週1回 当館学芸員が支援する活動日を設ける。成果は活動報告書にまとめる。 **⑥ボランティア育成**(通年):市民文化財研究員修了生の中の希望者及び公募による申込希望者に展示解説や行事の際の業務補助などを行うボランティアの育成として、養成講座・研修会・自主研修活動の支援を行う。 **⑦地域や大学との連携**:地域のイベントである太白区民まつりに参画したり、学生ボランティアとの協働事業を行うなど、地域や大学との連携を強化する。 **⑧富沢ゼミ**:富沢遺跡周辺を中心に、仙台市内の遺跡や文化財などを紹介する講座。					
94	**研究報告の刊行**	通年	富沢遺跡保存館	190	190	市指定管理料 190
	富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム・縄文の森広場)の職員・ボランティアなどによる調査研究活動や研修の成果を研究報告としてまとめ、今後の博物館運営に役立てる。					
95	**ポスター・図録等の印刷・刊行**	通年	富沢遺跡保存館	1,256	1,256	市指定管理料 1,256
	4回分の企画展ポスター・チラシを作成する。なお、特別企画展については展示図録を刊行する。					
96	**資料の収集・保管**	通年	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
	仙台市教育委員会で所蔵している旧石器時代に関する資料等を借用・保管し、適切な管理を行い館の活動に活用する。					
97	**遺構の各種分析調査**	通年	富沢遺跡保存館	367	367	市指定管理料　367
	保存公開している遺跡の現状を定量的に把握することを目的とし、各種分析調査を行う。併せて保存処理検討会を開催する。					
98	**次年度事業準備・その他**	通年	富沢遺跡保存館	351	351	市指定管理料　351
	2020年度の特別企画展に向けた資料調査や出展交渉、及びその他の企画展・体験教室等についての資料調査等を行う。また開館から22年を経過し、常設展の内容が最新の研究成果を反映していないところが増えてきており、展示内容や方法を検討するために有識者を招き指導・助言をいただく場を設ける。					

②地域との連携事業

99	**運営懇談会**	通年	富沢遺跡保存館	0	0	市指定管理料 0
	富沢遺跡保存館の運営に理解と協力を得るために事業を紹介したり、館の運営や事業に活かすことを目的に意見やニーズの聴取を行ったりするための場を設ける。近隣の町内会・小中学校・商業施設・市民センター等を対象に、懇談会や聞き取り調査を行い、学校や地域との連携事業を進めていくきっかけとする。					

(3)仙台市縄文の森広場管理運営・調査研究・普及啓発事業

100	**仙台市縄文の森広場　管理運営**	通年	縄文の森広場	42,491	42,491	市指定管理料 42,491
	縄文時代に関連する体験活動や展示等の事業を実施し、学校教育活動や生涯学習を支援する場として、縄文の森広場を維持管理する。					
101	**仙台市縄文の森広場　常設展示**	通年	縄文の森広場	16,370	16,370	市指定管理料 16,370
	施設内展示及び野外展示を適正な状態に保つ。特に、屋外展示の復元住居や植栽は、縄文時代の雰囲気を伝える重要な展示品として、適切な維持管理や環境整備を行う。					
102	**コーナー展示**	通年	縄文の森広場	40	40	市指定管理料　40
	宮城県内を含む東北地方の縄文時代の遺跡から発見された遺構と遺物を通して、縄文時代の人々の暮らしについて紹介する。 **①「仙山交流in仙台-下ノ内浦遺跡と出土遺物」**（3/15～6/9） **②「東北の縄文遺跡①」**（7/13～10/20） **③「東北の縄文遺跡②」**（12/1～2/11） **④「東北の縄文遺跡③」**（3/14～6/7）					
103	**縄文まつり**	5/11、7/15、10/12、2/9	縄文の森広場	997	997	市指定管理料　997
	季節ごとに開催する自由参加イベント。計4回実施し、その日だけの体験コーナーや音楽演奏などを実施する。					
104	**普及啓発事業**	通年	縄文の森広場	1,968	1,968	市指定管理料 1,968
	①団体予約：子ども会、町内会等の各種団体対象の展示解説や縄文体験。 **②随時体験：**来館者を対象とし、様々な縄文体験メニューを提供。 **③体験講座：**「週末体験講座」「夏休み子ども考古学教室」「発掘調査体験教室」など、各種体験教室。 **④特別イベント：**春・夏・秋・冬の長期休業期間にあわせた、誰でも楽しめる体験イベント等。					
105	**縄文講座**	12月～2月	縄文の森広場	145	145	市指定管理料　145
	縄文時代研究について各分野の第一人者による講演会。毎回公募100名対象。以下の内容を予定。 **①「縄文最新研究　最前線①」**（12/8） **②「縄文最新研究　最前線②」**（1/19） **③「縄文最新研究　最前線③」**（2/16）					
106	**ボランティア育成事業**	通年	縄文の森広場	281	281	市指定管理料　281
	当館でのボランティア活動を新たに希望される方の養成と、既にボランティアとして登録されている方のスキルアップを兼ねて行う。各種体験活動の補助、展示についてのより分かりやすい説明などのための研修事業。					

①学校との連携事業

107	**学校教育との連携**	8月、10月～12月	縄文の森広場	7	7	市指定管理料　7
	学校教育との連携促進を目的として実施する事業。8月には、市内小・中学校の教職員を対象とした、当館の概要説明や体験活動事業を周知するために、教職員利用研修会及び機関研修を実施。10月～11月には、学芸員資格取得を目指す大学生が、必要単位を取得するために必要な博物館実務実習の受入れを実施。10月～12月には、近隣中学校より職場体験の生徒を受け入れる。					
108	**利用学習事業**	通年	縄文の森広場	2,569	2,569	市指定管理料 2,569
	小・中学校（小学校5・6年生及び中学校1年生）を対象に、主に社会科学習の一環として当館を効果的に利用する利用学習を実施する。当館利用推進を目的として、授業の実践校に交通費の補助を行い、学校側との綿密な連携のもとに、館内外の見学や各種の体験学習を行う。なお、事業実施にあたっては参加校募集の段階から本館・地底の森ミュージアムの同事業と連携して行う。平成31年度の応募校は28校が見込まれている。					

②地域との連携事業

109	**運営懇談会**	通年	縄文の森広場	2	2	市指定管理料　2
	縄文の森広場利用者や地域の方々等に出席いただき、当館の活動を紹介し理解を得ること、またその意見やニーズを把握し、当館の運営に役立てることを目的とする。また、地域と連携した今後の事業を模索する場とする。					
110	**野外展示「縄文の森」の多目的活用「森でみつける『じょうもん』」**	通年	縄文の森広場 太白山自然観察の森 太白小学校	110	110	市指定管理料　110
	野外展示「縄文の森」の利活用の幅をひろげるために、近隣住民・小学校・地域の団体などと連携を図りながら、専門家の指導を受けて植生環境の充実を図る事業として、平成30年度10月には太白山自然観察の森と連携し、太白小学校1年生を対象として、生育するクリなどを採取し育てる事業を行った。当年度は、前年度に引き続き縄文時代に利用された植物を観察する事業を継続して行う。					

③調査研究事業

111	**体験活動メニューの調査研究**	通年	縄文の森広場	162	162	市指定管理料 162
	各種研究成果や実験考古学の成果を生かして、新たな縄文体験メニューやイベントの企画・開発、学校教育との連携事業の推進に取り組む。					
112	**復元住居の経年変化及び維持管理に関する研究調査**	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
	公開している復元住居の経年変化を把握し、当時の生活実態に合わせた効果的な維持管理の方法を研究する。復元住居の現状確認と今後の維持管理法の方向性を検討する。また、土葺き竪穴住居の上屋構造に関する調査などを行う。					
113	**ボランティアスタッフとの共同調査研究**	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
	当館が実施している各種事業の内容深化、あるいは新規イベントの開発を目的として、ボランティアスタッフと共同で調査研究活動を実施する。					
114	**次年度コーナー展資料調査**	通年	縄文の森広場	63	63	市指定管理料 63
	平成31年度に予定している、展示の内容及び展示と連動した体験活動を検討するために、資料調査を実施する。					
115	**資料の収集・保管事業**	通年	縄文の森広場	0	0	市指定管理料 0
	仙台市で所蔵している山田上ノ台遺跡及び縄文時代に関する資料を借用保管し、適切な管理を行う。また、事業活動の充実を図るため、関連する図書資料等の収集を行う。					

(4)仙台文学館管理運営・調査研究・普及啓発事業

116	**仙台文学館 管理運営**	通年	仙台文学館	192,168	192,168	市指定管理料 192,168
	文学に関する展示などを実施するとともに、文学活動の場や資料の提供を行い、学校教育活動や生涯学習活動を支援することを目的に、入館者の利便に供する施設の管理運営を行う。					収益事業を含む
117	**仙台文学館 常設展示**	通年	仙台文学館	6,000	6,000	市指定管理料 6,000
	常設展示室をリニューアルし、明治から現代の仙台・宮城ゆかりの文学や、宮城ゆかりの漫画アニメなどのサブカルチャーを紹介する。資料収集の状況に応じて展示替えを行い新しい情報の提供を行う。					

①特別展・企画展

118	**20周年記念特別展「井上ひさしの劇列車Ⅰ期、Ⅱ期」**	4/27～6/30 12/14～4/5	仙台文学館	5,521	5,521	市指定管理料 5,521
	明治から昭和にかけて活躍した作家・文学者－宮沢賢治、樋口一葉、林芙美子、太宰治－を取り上げた井上ひさしの評伝劇は、今でも多くのファンを持つ代表作ばかりである。展示では2期にわたって、それら評伝劇の創作資料や、創作にあたって井上が読み込んだ書籍資料、そのほか主人公となった作家の実像がわかる資料などを紹介する。題材となった人物の実人生や作品から、井上ひさしがどのように評伝劇を作り上げていったのかに光をあてることで、井上評伝劇の魅力を来場者の方々にもに、彼ら文学者に対する井上のまなざしを伝える。					
119	**20周年企画「夏休みこども文学館えほんのひろば　スズキコージの世界展」**	7/13～8/25	仙台文学館	1,725	1,725	市指定管理料 1,725
	その個性的な絵柄と、ダイナミックな作風で多くのファンを持つ絵本作家・スズキコージの原画展を開催。2007年に、小規模な展示を開催して好評を得ており、再度の開催を待望する回答が寄せられていたが、今回は2017年にアーサー・ビナードと共作の形で刊行され、第23回日本絵本賞を受賞した『ドームがたリ』を中心に構成する。また、作家によるトークイベントやワークショップなども開催し、絵本の楽しさとスズココージの世界の面白さを体験してもらうような企画とする。					
120	**特別展「斎藤茂吉展（仮）」**	9/14～11/24	仙台文学館	4,760	4,760	市指定管理料 4,760
	日本の短歌史上にその名を刻む山形県出身の歌人・斎藤茂吉。死後半世紀を経た今日においてもなお、その歌は多くの読者の共感を呼んでいる。茂吉短歌の普遍的魅力と味わい、そしてその波乱に満ちた生涯を紹介し、歌人として、人間としての茂吉の魅力を紹介する。山形の斎藤茂吉記念館、東京の世田谷文学館の協力を得て、貴重な肉筆資料も公開する予定である。					
121	**新春ロビー展「100万人の年賀状展」**	1/10～2/11	仙台文学館	203	203	市指定管理料 203
	文学館あての年賀状を広く一般から募集する。文学館の住人でもある作家宛の年賀状やゆかりの文学者から寄せられた年賀状なども展示する。					
122	**資料の収集・保管**	通年	仙台文学館	4,956	4,956	市指定管理料 4,956
	宮城・仙台ゆかりの文学者・文学作品に関する資料の収集を行う。収蔵した資料の適切な整理とコンピュータを活用した資料管理を行う。また、必要に応じて資料の修復や複製の制作を行う。					
123	**次年度事業準備・その他**	通年	仙台文学館	1,937	1,937	市指定管理料 1,937
	平成32年春の特別展の準備を進める。					

5.定款第4条第6号の事業（文化施設及び生涯学習施設の管理運営）

番号	事　業　名		期　日	会　場	支出	収入	収入備考
	事業内容						備考

（単位；千円）

(1)仙台市青年文化センター管理運営事業

124	**仙台市青年文化センター管理運営**	通年	日立システムズホール仙台	359,826	359,826	市指定管理料 359,826
	平成29年度から5年間の指定管理を受け、その3年目となる当年度は次のとおり施設運営を行う。 (1)利用者が安心・安全に利用できるよう、保守点検等をはじめとする各種点検業務を強化するとともに、火災や震災、外部からの脅威に対してより実践的に対処できる防災体制について、不断の見直しを行いながら取り組む。 (2)利用者と積極的なコミニュケーションを図り、利用に関する的確なアドバイスを行い利用者の増加を目指す。 (3)施設利用や芸術文化に関するタイムリーな情報を広く提供するなど広報を強化する。 (4)市民の文化活動の拠点施設及び劇場法にうたう劇場・音楽堂としての役割を担うことを認識し、地域資源を有効に活用するなど工夫しながら各種事業を展開し、より市民に親しまれる施設づくりを進める。 (5)利用者アンケートの実施や意見箱返答コーナーの設置も継続するなど意見集約を積極的に行いながら業務改善に努める。 (6)平成32年10月から約1か年に亘って全館閉館して行う大規模改修についてはこれまで培った管理運営の知識と経験をいかしながら、施設設置者とともに漏れのない準備を行う。 (7)楽都仙台や劇都仙台の拠点施設として事業の運営サポートを行う。					収益事業を含む

(2)仙台市泉文化創造センター管理運営事業

125	**仙台市泉文化創造センター管理運営**	通年	仙台銀行ホール イズミティ21	131,730	131,730	市指定管理料 131,730
	「仙台市市民文化事業団・東北共立・石井ビル管理グループ」として平成27年度から5年間の指定管理を受けた期間の5年目として、次のとおり施設運営を行う。 (1)市民の芸術文化の振興と育成の場を提供し、自主的な文化活動の拠点となるよう、市民が利用しやすい開かれた施設運営を目指していく。 (2)施設利用や公演実施に関する相談に応じ、的確な情報や助言を提供するなど、利用者への支援を充実させる。 (3)適切で丁寧な接客業務を行うと共に、施設貸出しに際してはニーズに応じて弾力的な取扱いも検討し、更にアンケートや「お客様の声」などを参考に、利用者の立場に立った施設運営を行なっていく。 (4)施設の安全な維持管理に努め、各種災害に備えた防災体制をより整備し、省エネルギー、バリアフリーへの取組みを引き続き推進していく。 (5)施設を活性化させる事業として、宝塚歌劇仙台公演、泉中央地区プレイガイド事業、市民との協働によるロビーイベント、ホール見学会及びボランティアによるピアノ弾き込み事業、市民ギャラリー等での展示、新春いずみ寄席等を行う。					収益事業を含む

(3)せんだいメディアテーク管理運営事業

126	**せんだいメディアテーク 管理運営**	通年	メディアテーク	625,042	625,042	市指定管理料　625,042
	市民文化のシンボルでもある定禅寺通に面した立地と、世界に誇る建築デザインという施設の特性を最大限に生かし、人々がさまざまなメディアを通じて自由に情報のやりとりを行う生涯学習の場として、また美術や映像文化などを中心とする芸術文化活動の拠点として、施設・設備の適切な管理運営に努めるとともに、計画的に保全を図っていく。メディアを活用した生涯学習活動及び文化活動にかかる情報・資料の収集、調査研究及び普及啓発、視聴覚障害者に対する情報活動の支援を行う。また、美術・映像に係わる情報・資料の収集及び提供並びに展覧会、講習会その他の催しを行うほか、展示や上映のための施設の提供を行う。事業としては協働事業を引き続き発展させ、市民参加型事業を積極的に進める。また、博物館施設など地域の知的資源を活用するため、博物館連携ネットワーク「仙台・宮城ミュージアムアライアンス」事務局業務を仙台市教育委員会と共同で担うとともに、学校との連携を図り次世代の育成に取り組む。					収益事業を含む
127	**せんだいメディアテーク ライブラリー運営・美術映像文化推進事業**	通年	メディアテーク	9,227	9,227	市指定管理料　9,227
	映像音響ライブラリー、視聴覚教材ライブラリー、視聴覚障害者情報ライブラリーにおける映像音響資料及びデジタル資料等の収集・整理・提供事業を推進し、市民の情報検索及び閲覧の環境を提供する。また、せんだいメディアテークの事業、および「3がつ11にちをわすれないためにセンター」において集められた震災関連の映像などを含むさまざまな協働による地域の芸術文化活動の記録や制作物を、smtコレクションとして公開し、映像音響ライブラリーと視聴覚教材ライブラリーを通じて提供する。					